

第1章 人口動態

1 平成26年の概況

人口動態統計の概況を第1.1表に示す。前年に比べ、出生、死亡、死産、婚姻、離婚は全て減少した。出生は、45,203人で前年より694人減少し、人口千対の率は9.0（前年9.1）となった。

死亡は49,317人で前年より139人減少し、率は9.8（前年9.8）となった。

出生数と死亡数の差である**自然増減数**は-4,114人で、前年の-3,559人より555人減少し、率は-0.8で前年に続き、マイナスとなった。

死産は1,155胎で前年より40胎減少し、出産（出生＋死産）千対の率は24.9（前年25.4）となった。

婚姻は27,359組で前年より824組減少し、率は5.4（前年5.6）となった。

離婚は9,981組で前年より309組減少し、率は1.98（前年2.04）となった。

なお、福岡県の出生率、死産率、婚姻率及び離婚率は全国を上回り、死亡率は全国を下回った。

第1.1表 人口動態統計の概況

項 目	福 岡 県						全 国	
	年 間 発 生 数			発 生 比 率		平成26年 平均発生間隔	発 生 比 率	
	平成26年	平成25年	対前年差	平成26年	平成25年	時:分'秒"	平成26年	平成25年
出 生	45,203	45,897	-694	9.0	9.1	00:11'38"	8.0	8.2
死 亡	49,317	49,456	-139	9.8	9.8	00:10'39"	10.1	10.1
乳 児 死 亡	99	103	-4	2.2	2.2	88:29'05"	2.1	2.1
新 生 児 死 亡	44	41	3	1.0	0.9	199:05'27"	0.9	1.0
自 然 増 減	-4,114	-3,559	-555	-0.8	-0.7	…	-2.1	-1.9
死 産	1,155	1,195	-40	24.9	25.4	07:35'04"	22.9	22.9
自 然 死 産	462	472	-10	10.0	10.0	18:57'40"	10.6	10.4
人 工 死 産	693	723	-30	14.9	15.4	12:38'26"	12.3	12.5
周 産 期 死 亡	170	157	13	3.7	3.4	51:31'46"	3.7	3.7
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	133	123	10	2.9	2.7	65:51'53"	3.0	3.0
早 期 新 生 児 死 亡	37	34	3	0.8	0.7	236:45'24"	0.7	0.7
婚 姻	27,359	28,183	-824	5.4	5.6	00:19'13"	5.1	5.3
離 婚	9,981	10,290	-309	1.98	2.04	00:52'40"	1.77	1.84

注：1) 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2) 人口は「平成26年人口動態統計上巻 年次・都道府県・性別人口」(厚労省)を使用(全国 125,431,000人、福岡県 5,046,000人)。

2 出 生

(1) 出生の動向

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移を第2.1表及び図2.1に示す。平成26年の本県の出生数は45,203人、出生率は9.0で、出生数は前年をわずかに下回った。また、合計特殊出生率は、昭和35年以降全国と同程度または全国を下回って推移していたが、平成22年からは全国を上回り、平成26年は全国の1.42に対し1.46であった。

第2.1表 出生数・出生率（人口千対）・合計特殊出生率の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	出 生 数	出生率	合計特殊出生率	出 生 数	出生率	合計特殊出生率
昭和22年	108,237	34.1	...	2,678,792	34.3	4.54
" 25年	109,156	30.9	...	2,337,507	28.1	3.65
" 30年	76,427	19.8	...	1,730,692	19.4	2.37
" 35年	67,318	16.8	1.92	1,606,041	17.2	2.00
" 40年	68,854	17.4	2.00	1,823,697	18.6	2.14
" 45年	69,632	17.4	1.95	1,934,239	18.8	2.13
" 50年	71,059	16.7	1.83	1,901,440	17.1	1.91
" 55年	64,404	14.2	1.74	1,576,889	13.6	1.75
" 60年	58,837	12.4	1.75	1,431,577	11.9	1.76
平成2年	48,164	10.1	1.52	1,221,585	10.0	1.54
" 7年	46,849	9.6	1.42	1,187,064	9.6	1.42
" 12年	47,290	9.5	1.36	1,190,547	9.5	1.36
" 17年	43,421	8.7	1.26	1,062,530	8.4	1.26
" 18年	45,304	9.0	1.30	1,092,674	8.7	1.32
" 19年	46,393	9.2	1.34	1,089,818	8.6	1.34
" 20年	46,695	9.3	1.37	1,091,156	8.7	1.37
" 21年	46,084	9.2	1.37	1,070,035	8.5	1.37
" 22年	46,818	9.3	1.44	1,071,304	8.5	1.39
" 23年	46,220	9.2	1.42	1,050,806	8.3	1.39
" 24年	45,815	9.1	1.43	1,037,231	8.2	1.41
" 25年	45,897	9.1	1.45	1,029,816	8.2	1.43
" 26年	45,203	9.0	1.46	1,003,539	8.0	1.42

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとした時の子ども数を表す。国勢調査年次は日本人人口、他の年次は推計人口を用いた。

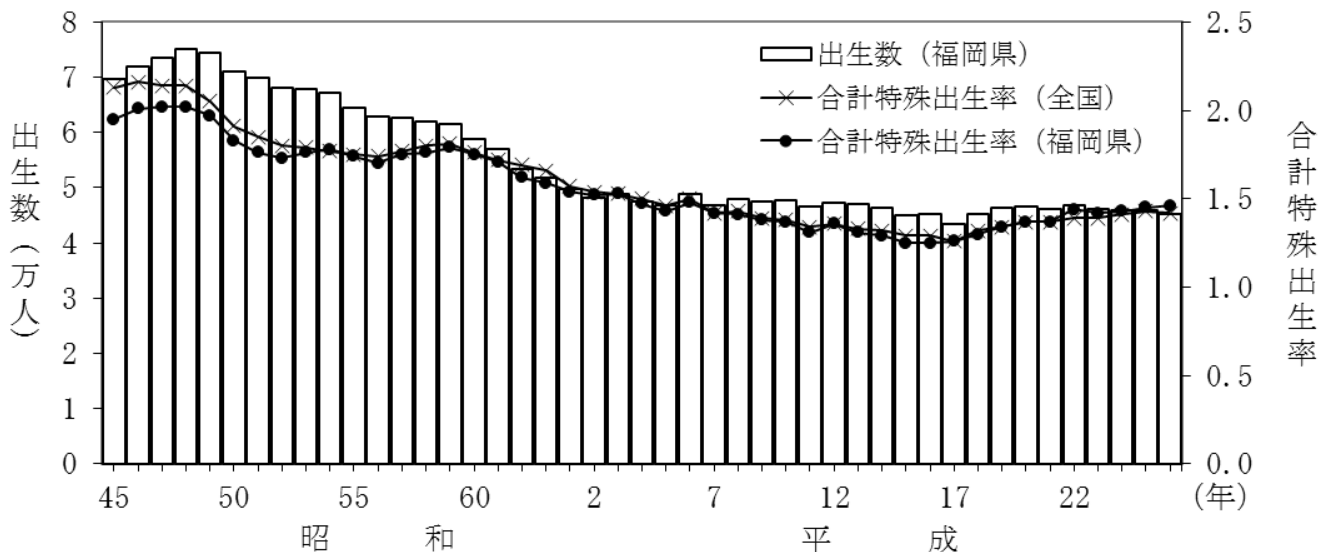


図2.1 出生数・合計特殊出生率の推移

平成 26 年の本県の市区町村別出生率を第 2.2 表及び図 2.2 に示す。最も出生率が高かったのは粕屋町の 15.5 だった（平成 11 年以降連続 1 位）。次いで新宮町の 13.5、志免町の 12.0、苅田町の 11.3 の順だった。福岡市及びその近郊で高い傾向がみられる。

第 2.2 表 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）

市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率
粕屋町	15.5	糸田町	9.6	宇美町	8.4	上毛町	6.9
新宮町	13.5	早良区	9.5	宗像市	8.4	八女市	6.8
志免町	12.0	筑紫野市	9.4	古賀市	8.4	岡垣町	6.6
苅田町	11.3	行橋市	9.4	古賀市	8.3	大牟田市	6.6
大野城市	11.3	大刀洗町	9.4	遠賀市	8.3	門司区	6.5
博多区	10.4	春日市	9.4	芦屋町	8.3	中間市	6.4
篠栗町	10.3	田川市	9.2	宮若市	8.1	香春町	6.4
吉富町	10.2	飯塚市	9.1	朝倉市	7.8	八幡東区	6.4
太宰府市	10.1	桂川町	9.0	川崎町	7.8	大任町	6.3
南区	10.0	小倉南区	8.9	戸畑区	7.7	鞍手町	6.2
東区	10.0	小倉北区	8.9	うきは市	7.7	赤村	6.1
広川町	10.0	中央区	8.9	若松区	7.6	嘉麻市	5.8
筑後市	9.9	八幡西区	8.9	豊前市	7.6	みやま市	5.8
西区	9.9	福津市	8.8	築上町	7.6	添田町	5.7
須恵町	9.8	城南区	8.7	小郡市	7.6	みやこ町	5.5
那珂川町	9.8	筑前町	8.6	久山町	7.3	大川市	5.4
久留米市	9.7	直方市	8.6	糸島市	7.1	小竹町	4.8
大木町	9.7	水巻町	8.5	柳川市	7.1	小東村	3.2

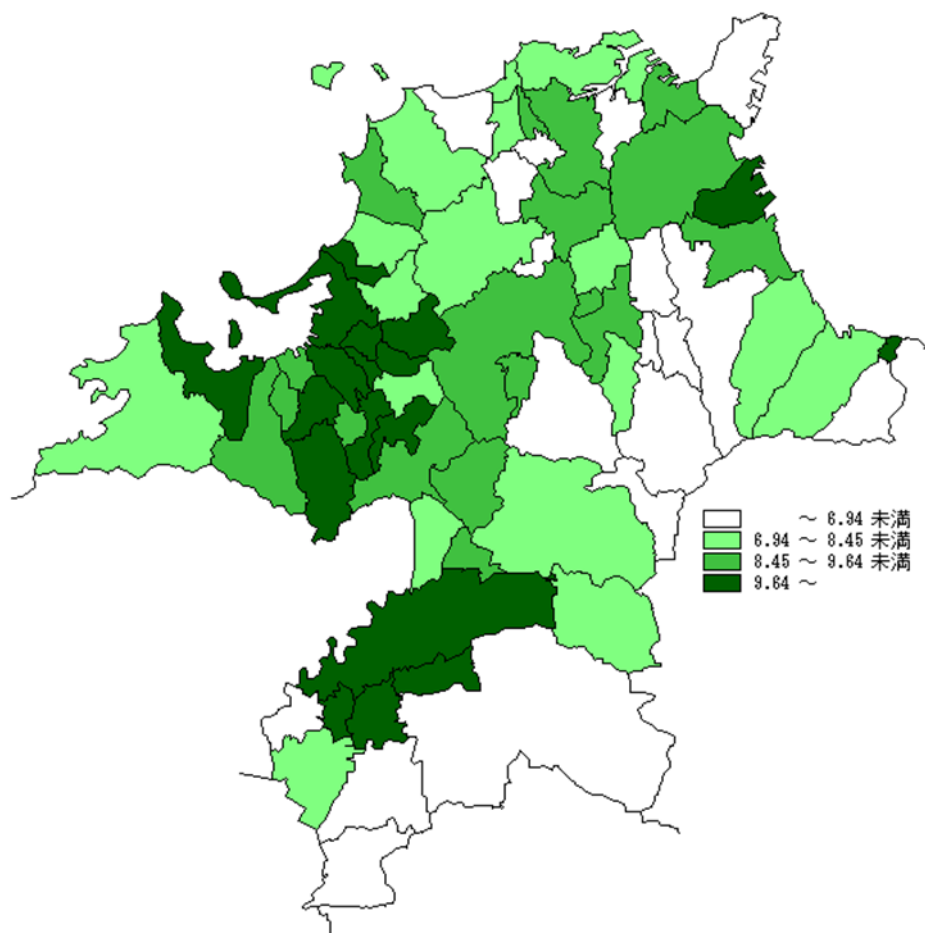


図 2.2 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）

(2) 人口の自然増減の状況

人口の自然増減の推移を第2.3表及び図2.3に示す。自然増減数及び自然増減率は近年減少傾向を示している。出生数は、平成17年まで増減を繰り返しながら全体としては減少傾向にあったが、平成18年に増加し、それ以降微増微減はあるがほぼ横ばいである。死亡数は、昭和57年以降、増減はあるものの徐々に増加しており、自然増減数は減少傾向を示し、平成22年からは出生数が死亡数を下回っている。なお、自然増減率は、平成16年以降は全国よりも上回って推移している。

第2.3表 自然増減数・自然増減率（人口千対）の推移

年次	自然増減数		自然増減率		年次	自然増減数		自然増減率	
	福岡県	福岡県	全国	福岡県		福岡県	全国		
昭和22年	60,155	18.9	19.7	〃 17年	746	0.1	-0.2		
〃 25年	72,282	20.5	17.2	〃 18年	2,034	0.4	0.1		
〃 30年	47,349	12.3	11.6	〃 19年	2,474	0.5	-0.1		
〃 35年	38,548	9.6	9.6	〃 20年	1,561	0.3	-0.4		
〃 40年	40,730	10.3	11.4	〃 21年	1,205	0.2	-0.6		
〃 45年	41,576	10.4	11.8	〃 22年	-178	-0.0	-1.0		
〃 50年	43,483	10.1	10.8	〃 23年	-1,892	-0.4	-1.6		
〃 55年	34,887	7.6	7.3	〃 24年	-3,142	-0.6	-1.7		
〃 60年	27,949	5.9	5.6	〃 25年	-3,559	-0.7	-1.9		
平成2年	14,569	3.0	3.3	〃 26年	-4,114	-0.8	-2.1		
〃 7年	9,691	2.0	2.1						
〃 12年	8,785	1.8	1.8						

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

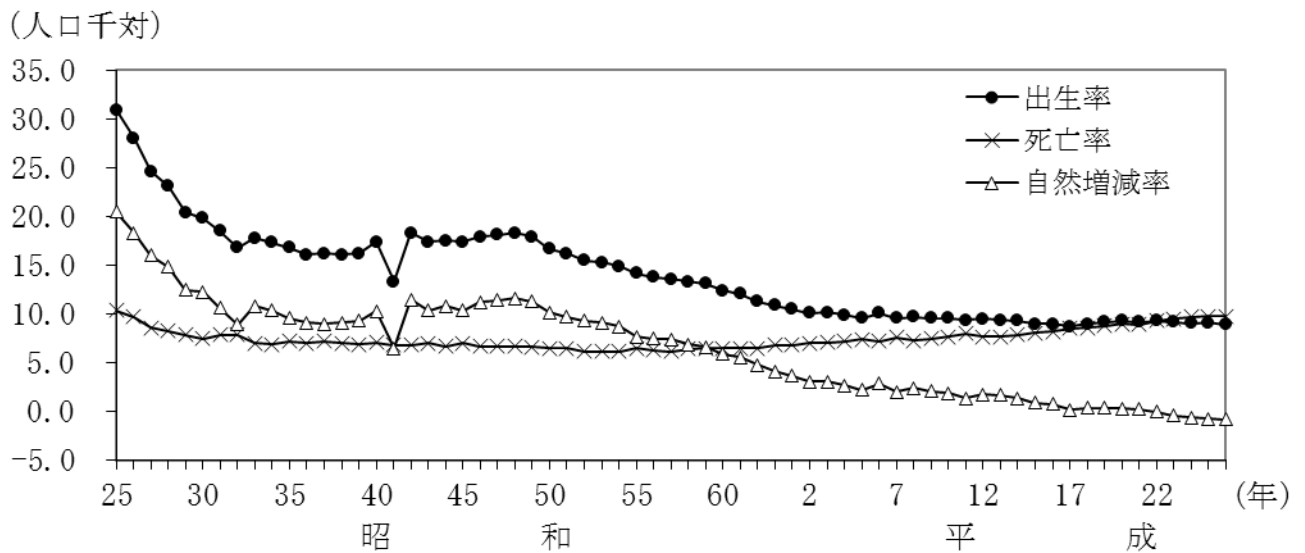


図2.3 出生率・死亡率・自然増減率の推移（福岡県）

(3) 出生順位別にみた出生数の状況

出生順位別にみた出生数・百分率の推移を第2.4表及び図2.4に示す。平成26年の本県の出生数は45,203人だった。出生順位の構成割合をみると、最も多かったのは第1子の20,425人(45.2%)だった。次いで第2子の16,160人(35.7%)、第3子の6,502人(14.4%)、第4子以上の2,116人(4.7%)の順だった。

第2.4表 出生順位別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	第1子		第2子		第3子		第4子以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	
昭和35年	67,318	29,595	44.0	22,073	32.8	9,549	14.2	6,101	9.1	0
40年	68,854	31,864	46.3	26,079	37.9	8,187	11.9	2,722	4.0	2
45年	69,632	31,347	45.0	27,144	39.0	8,980	12.9	2,161	3.1	0
50年	71,059	32,565	45.8	28,344	39.9	8,401	11.8	1,749	2.5	0
55年	64,404	27,032	42.0	25,664	39.8	9,901	15.4	1,807	2.8	0
60年	58,837	23,855	40.5	22,899	38.9	10,029	17.0	2,054	3.5	0
平成 2年	48,164	20,286	42.1	17,665	36.7	8,338	17.3	1,875	3.9	0
7年	46,849	21,688	46.3	16,705	35.7	6,713	14.3	1,743	3.7	0
12年	47,290	22,851	48.3	16,982	35.9	6,042	12.8	1,415	3.0	0
17年	43,421	20,635	47.5	16,032	36.9	5,328	12.3	1,426	3.3	0
18年	45,304	21,301	47.0	16,504	36.4	5,912	13.0	1,587	3.5	0
19年	46,393	21,695	46.8	16,848	36.3	6,303	13.6	1,547	3.3	0
20年	46,695	21,533	46.1	16,931	36.3	6,536	14.0	1,695	3.6	0
21年	46,084	21,546	46.8	16,456	35.7	6,392	13.9	1,690	3.7	0
22年	46,818	21,343	45.6	16,967	36.2	6,593	14.1	1,915	4.1	0
23年	46,220	20,819	45.0	16,477	35.6	6,843	14.8	2,081	4.5	0
24年	45,815	20,554	44.9	16,483	36.0	6,755	14.7	2,023	4.4	0
25年	45,897	20,461	44.6	16,573	36.1	6,753	14.7	2,110	4.6	0
26年	45,203	20,425	45.2	16,160	35.7	6,502	14.4	2,116	4.7	0

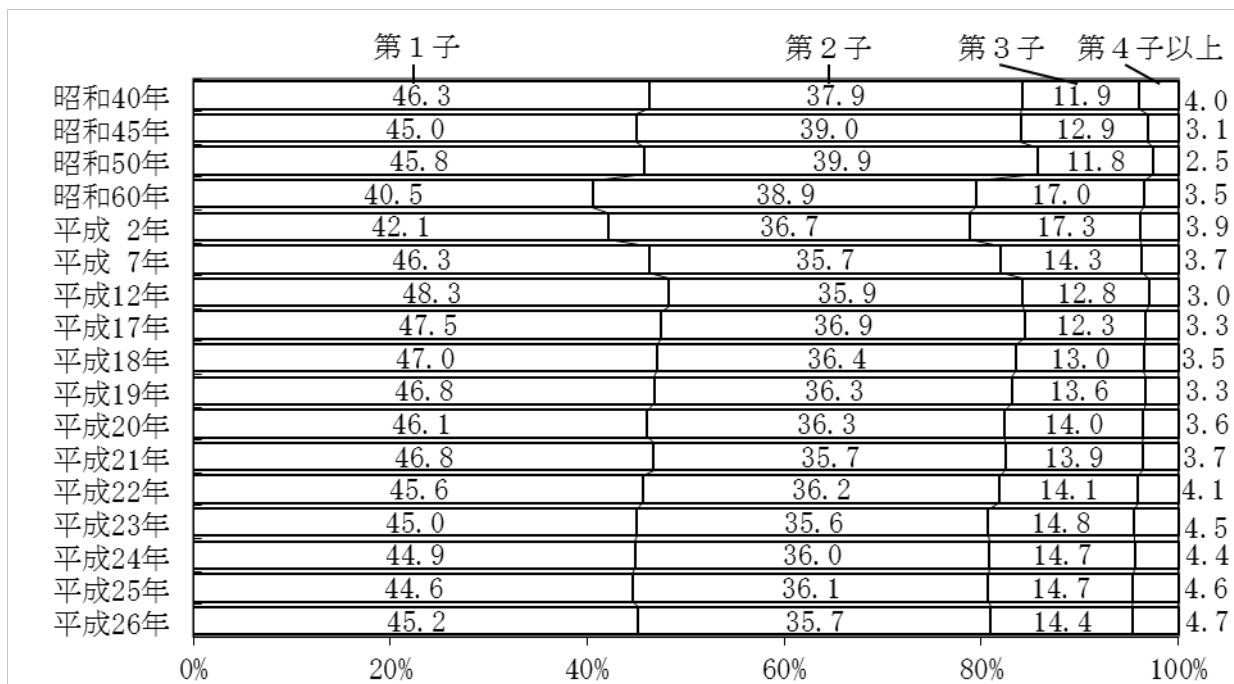


図2.4 出生順位別にみた出生割合の推移(福岡県)

(4) 母の年齢階級別にみた出生状況

母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移を第2.5表及び図2.5に示す。平成26年の本県の状況をみると、最も多かったのは30～34歳の15,945人(35.3%)だった。次いで25～29歳の12,389人(27.4%)、35～39歳の9,578人(21.2%)、20～24歳の4,438人(9.8%)、40歳以上の2,055人(4.5%)、19歳以下の798人(1.8%)の順だった。近年35～39歳及び40歳以上の割合が増加し、20代の減少が続いている。

第2.5表 母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数		19歳以下		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40歳以上		不詳
	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	
昭和35年	67,318		1,163	1.7	19,261	28.6	31,002	46.1	12,190	18.1	3,136	4.7	566	0.8	0
昭和40年	68,854		753	1.1	17,893	26.0	32,658	47.4	14,284	20.7	2,849	4.1	417	0.6	0
昭和45年	69,632		764	1.1	17,720	25.4	34,021	48.9	13,500	19.4	3,222	4.6	399	0.6	6
昭和50年	71,059		689	1.0	17,777	25.0	37,900	53.3	11,866	16.7	2,470	3.5	357	0.5	0
昭和55年	64,404		764	1.2	11,668	18.1	32,790	50.9	16,471	25.6	2,438	3.8	273	0.4	0
昭和60年	58,837		885	1.5	9,713	16.5	27,383	46.5	16,282	27.7	4,189	7.1	384	0.7	1
平成2年	48,164		783	1.6	7,445	15.5	20,469	42.5	14,719	30.6	4,150	8.6	598	1.2	0
平成7年	46,849		839	1.8	7,956	17.0	18,443	39.4	14,566	31.1	4,431	9.5	614	1.3	0
平成12年	47,290		972	2.1	7,052	14.9	18,437	39.0	15,043	31.8	5,148	10.9	637	1.3	1
平成17年	43,421		803	1.8	5,775	13.3	14,239	32.8	15,899	36.6	5,890	13.6	815	1.9	0
平成18年	45,304		787	1.7	6,001	13.2	14,316	31.6	16,543	36.5	6,832	15.1	825	1.8	0
平成19年	46,393		766	1.7	5,970	12.9	14,368	31.0	16,847	36.3	7,442	16.0	1,000	2.2	0
平成20年	46,695		816	1.7	5,895	12.6	14,051	30.1	16,906	36.2	7,908	16.9	1,119	2.4	0
平成21年	46,084		820	1.8	5,726	12.4	13,677	29.7	16,290	35.3	8,291	18.0	1,280	2.8	0
平成22年	46,818		748	1.6	5,340	11.4	13,919	29.7	16,489	35.2	8,877	19.0	1,445	3.1	0
平成23年	46,220		694	1.5	5,157	11.2	13,614	29.5	16,320	35.3	8,965	19.4	1,470	3.2	0
平成24年	45,815		731	1.6	4,736	10.3	13,459	29.4	16,035	35.0	9,140	19.9	1,714	3.7	0
平成25年	45,897		737	1.6	4,548	9.9	13,039	28.4	16,148	35.2	9,607	20.9	1,818	4.0	0
平成26年	45,203		798	1.8	4,438	9.8	12,389	27.4	15,945	35.3	9,578	21.2	2,055	4.5	0

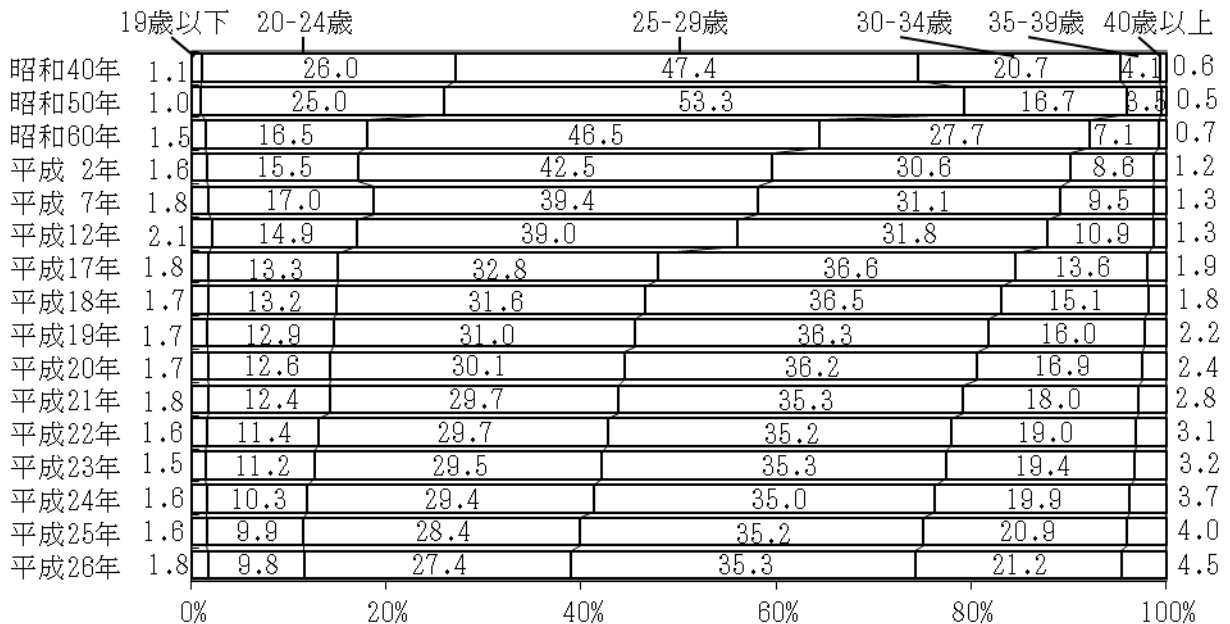


図2.5 母の年齢階級別にみた出生割合の推移(福岡県)

(5) 出生の場所

出生場所別にみた出生数・百分率の推移を第2.6表及び図2.6に示す。平成26年の本県の状況をみると、最も多かったのは診療所の30,055人(66.5%)だった。次いで病院の14,828人(32.8%)、助産所の206人(0.5%)、自宅の69人(0.2%)の順だった。平成18年以降病院での出生割合が増加し、診療所での出生割合は減少しており、平成23年にはその傾向に変化が見られたものの、平成24年以降は再び病院での出生割合が増加傾向にある。

第2.6表 出生場所別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	病院		診療所		助産所		自宅		その他	
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率
昭和35年	67,318	13,128	19.5	11,573	17.2	5,333	7.9	30,789	45.7	6,495	9.6
40年	68,854	16,672	24.2	31,028	45.1	9,553	13.9	9,543	13.9	2,058	3.0
45年	69,632	18,838	27.1	39,966	57.4	8,489	12.2	1,905	2.7	434	0.6
46年	71,960	20,188	28.1	41,945	58.3	7,986	11.1	1,471	2.0	370	0.5
47年	73,402	21,755	29.6	42,505	57.9	7,785	10.6	1,082	1.5	275	0.4
48年	75,097	22,100	29.4	44,762	59.6	7,202	9.6	795	1.1	238	0.3
49年	74,330	22,428	30.2	44,762	60.2	6,330	8.5	628	0.8	182	0.2
50年	71,059	22,165	31.2	42,689	60.1	5,516	7.8	511	0.7	178	0.3
55年	64,404	22,134	34.4	39,233	60.9	2,803	4.4	147	0.2	87	0.1
60年	58,837	24,446	41.5	32,863	55.9	1,398	2.4	100	0.2	30	0.1
平成 2年	48,164	17,976	37.3	29,633	61.5	509	1.1	38	0.1	8	0.0
7年	46,849	16,612	35.5	29,697	63.4	477	1.0	52	0.1	11	0.0
12年	47,290	15,989	33.8	30,903	65.3	335	0.7	53	0.1	10	0.0
17年	43,421	12,698	29.2	30,373	70.0	263	0.6	68	0.2	19	0.0
18年	45,304	13,087	28.9	31,846	70.3	302	0.7	55	0.1	14	0.0
19年	46,393	14,083	30.4	31,980	68.9	241	0.5	78	0.2	11	0.0
20年	46,695	14,512	31.1	31,850	68.2	249	0.5	71	0.2	13	0.0
21年	46,084	14,401	31.2	31,366	68.1	230	0.5	79	0.2	8	0.0
22年	46,818	14,711	31.4	31,751	67.8	251	0.5	89	0.2	16	0.0
23年	46,220	14,083	30.5	31,786	68.8	264	0.6	51	0.1	36	0.1
24年	45,815	14,418	31.5	30,987	67.6	275	0.6	86	0.2	49	0.1
25年	45,897	14,337	31.2	31,206	68.0	223	0.5	57	0.1	74	0.2
26年	45,203	14,828	32.8	30,055	66.5	206	0.5	69	0.2	45	0.1

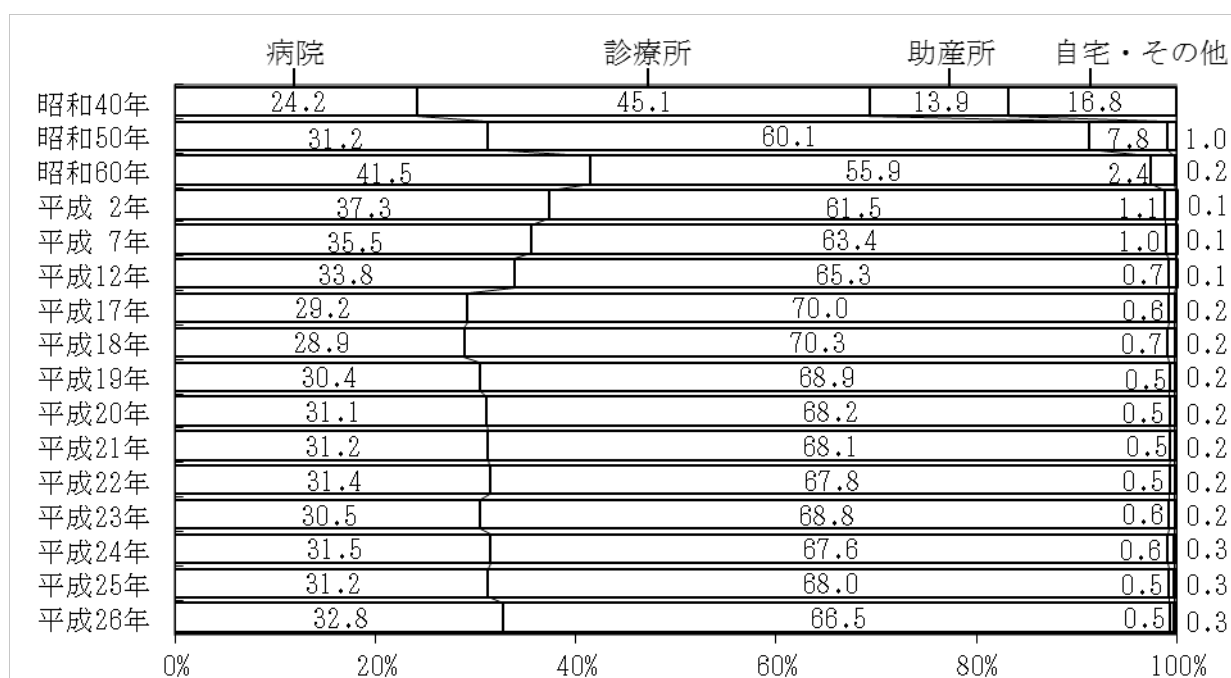


図2.6 出生場所別にみた出生割合の推移(福岡県)

(6) 低体重児出生数

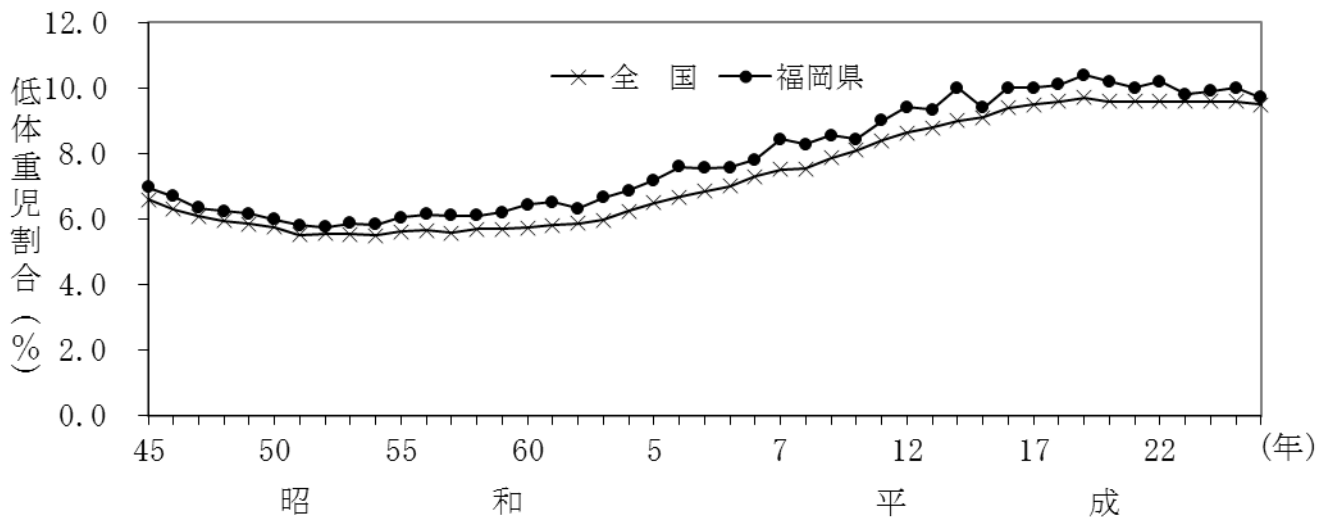
出生数に対する低体重児の構成割合の推移を第2.7表及び図2.7に示す。低体重児の構成割合は昭和50年代を底として漸増していたが、近年はほぼ横ばいで、平成26年の本県の低体重児出生数は4,404人、全出生数に対する低体重児の構成割合は9.7%だった。

全国と比べると本県の低体重児出生割合は常に上回って推移している。

第2.7表 低体重児出生数・割合の推移

年次	低体重児出生数 (福岡県)	低体重児出生割合(%)	
		福岡県	全国
昭和35年	5,892	8.8	—
〃 40年	5,628	8.2	—
〃 45年	4,857	7.0	6.6
〃 50年	4,249	6.0	5.8
〃 55年	3,894	6.1	5.6
〃 60年	3,783	6.4	5.7
平成2年	3,465	7.2	6.5
〃 7年	3,952	8.4	7.5
〃 12年	4,453	9.4	8.6
〃 17年	4,354	10.0	9.5
〃 18年	4,567	10.1	9.6
〃 19年	4,838	10.4	9.7
〃 20年	4,753	10.2	9.6
〃 21年	4,615	10.0	9.6
〃 22年	4,776	10.2	9.6
〃 23年	4,541	9.8	9.6
〃 24年	4,521	9.9	9.6
〃 25年	4,570	10.0	9.6
〃 26年	4,404	9.7	9.5

- 注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
 2) 平成7年からの低体重児は2,500g未満の出生数である。それ以前は2,500g以下の出生数である。



注：平成6年までは2500g以下の低体重児割合、平成7年からは2500g未満の低体重児割合である。

図2.7 出生数に対する低体重児の構成割合の推移

平成 26 年の本県の保健所管内別低体重児割合を図 2.8 に示す。最も低体重児割合が低かったのは城南区の 7.45% だった。次いで西区の 8.59%、筑紫の 8.97%、中央区の 9.02%、久留米市の 9.14% の順だった。

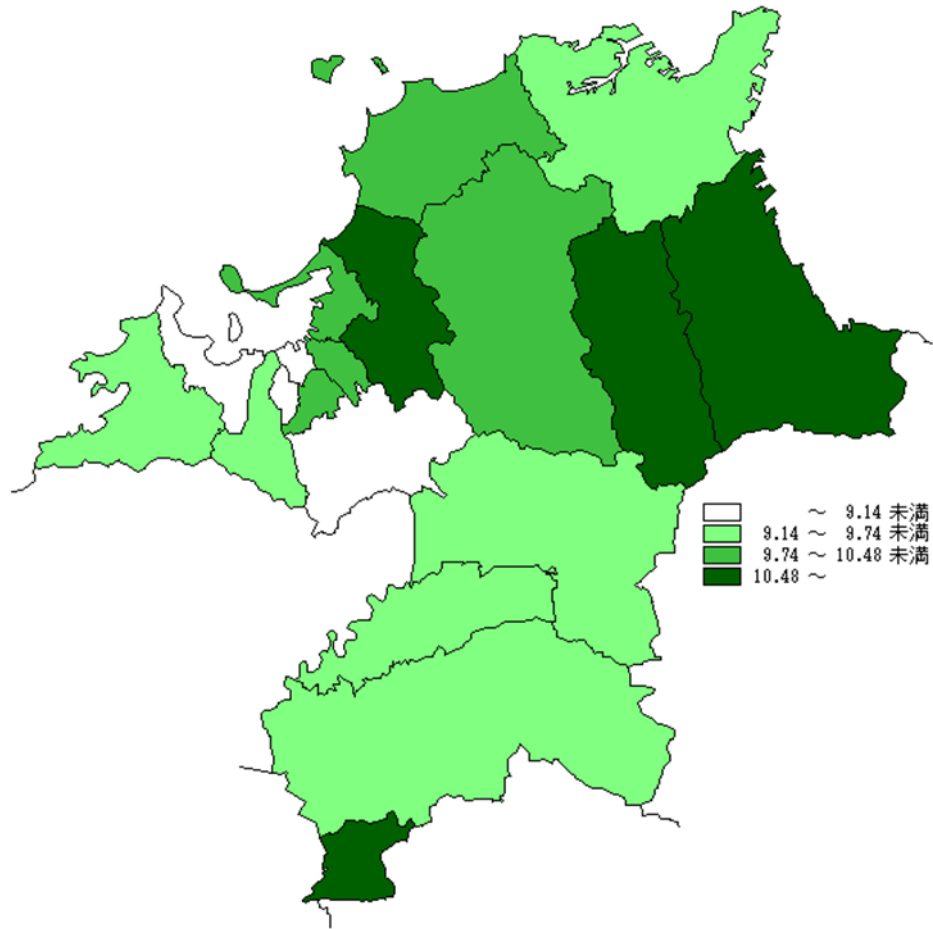


図 2.8 保健所管内別に見た出生数に対する低体重児の構成割合（平成 26 年・福岡県）

3 死 亡

(1) 死亡の動向

死亡数及び死亡率（人口千対）の推移を第3.1表に示す。平成26年の本県の死亡数は49,317人、死亡率は9.8だった。本県の死亡率の年次推移は全国の傾向とほぼ同様に推移し、近年高齢化の影響により、緩やかな上昇を示している。死亡率は高齢者が多いほど高くなる傾向にあるので、年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、緩やかな減少傾向にある。

第3.1表 死亡数・死亡率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率
昭和25年	36,874	10.4		904,876	10.9	16.3
" 30年	29,078	7.5		693,523	7.8	12.7
" 35年	28,770	7.2		706,599	7.6	12.3
" 40年	28,124	7.1		700,438	7.1	11.2
" 45年	28,056	7.0		712,962	6.9	10.1
" 50年	27,576	6.5		702,275	6.3	8.4
" 55年	29,517	6.5		722,801	6.2	7.3
" 60年	30,888	6.5		752,283	6.3	6.3
平成 2年	33,595	7.0	5.7	820,305	6.7	5.6
" 7年	37,158	7.6	5.3	922,139	7.4	5.3
" 12年	38,505	7.7	4.6	961,653	7.7	4.6
" 17年	42,675	8.5	4.3	1,083,796	8.6	4.3
" 18年	43,270	8.6	4.2	1,084,450	8.6	4.1
" 19年	43,919	8.8	4.1	1,108,334	8.8	4.1
" 20年	45,134	9.0	4.1	1,142,407	9.1	4.0
" 21年	44,879	9.0	3.9	1,141,865	9.1	3.9
" 22年	46,996	9.3	3.9	1,197,012	9.5	3.9
" 23年	48,112	9.5	3.9	1,253,066	9.9	4.0
" 24年	48,957	9.7	3.8	1,256,359	10.0	3.8
" 25年	49,456	9.8	3.7	1,268,436	10.1	3.7
" 26年	49,317	9.8	3.6	1,273,004	10.1	3.7

注：1) 年齢調整死亡率は福岡県保健環境研究所の計算による。計算に用いた年齢階級別人口は年齢階級別福岡県推計日本人人口（県調査統計課）を人口動態統計で用いる都道府県別日本人人口で補正した。

2) 空欄は福岡県年齢階級別日本人人口が入手できないため計算から除外した。

3) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 26 年の本県の市区町村別にみた死亡率を第 3.2 表及び図 3.1 に示す。本県で最も死亡率が低かったのは中央区の 6.1 だった。次いで、粕屋町の 6.4、新宮町の 6.5、春日市の 6.6 の順だった。福岡市及びその近郊で低い傾向がみられる。

第 3.2 表 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）

市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率
中央区	6.1	小郡市	8.8	水巻町	11.0	赤村	14.1
粕屋町	6.4	糸島市	9.4	大木町	11.0	八幡東区	14.2
新宮町	6.5	小倉南区	9.4	広川町	11.1	朝倉市	14.5
春日市	6.6	宗像市	9.4	飯塚市	11.1	鞍手町	14.5
大野城市	6.7	須恵町	9.5	岡垣町	11.2	福智町	14.8
博多区	7.0	筑前町	9.6	戸畑区	11.5	みやま市	14.9
城南区	7.1	筑後市	9.6	桂川町	11.6	大牟田市	15.1
那珂川町	7.2	大刀洗町	9.7	若松区	12.5	嘉麻市	15.6
古賀市	7.3	大田町	9.7	直方市	12.6	築上町	15.7
志免町	7.4	遠賀町	9.7	中間市	13.0	糸田町	15.8
早良区	7.5	八幡西区	10.0	柳川市	13.1	宮若市	15.9
筑紫野市	7.6	久留米市	10.0	大川市	13.2	香春町	16.0
東区	7.6	久山町	10.2	うきは市	13.4	川崎町	16.5
西区	7.8	芦屋町	10.4	八女市	13.5	大任町	17.3
宇美町	8.0	福津市	10.5	豊前市	13.7	上毛町	18.1
南区	8.1	吉富町	10.5	みやこ町	13.9	小竹町	18.3
篠栗町	8.3	行橋市	10.6	門司区	13.9	小添町	18.7
太宰府市	8.7	小倉北区	10.8	田川市	14.0	東峰村	30.1

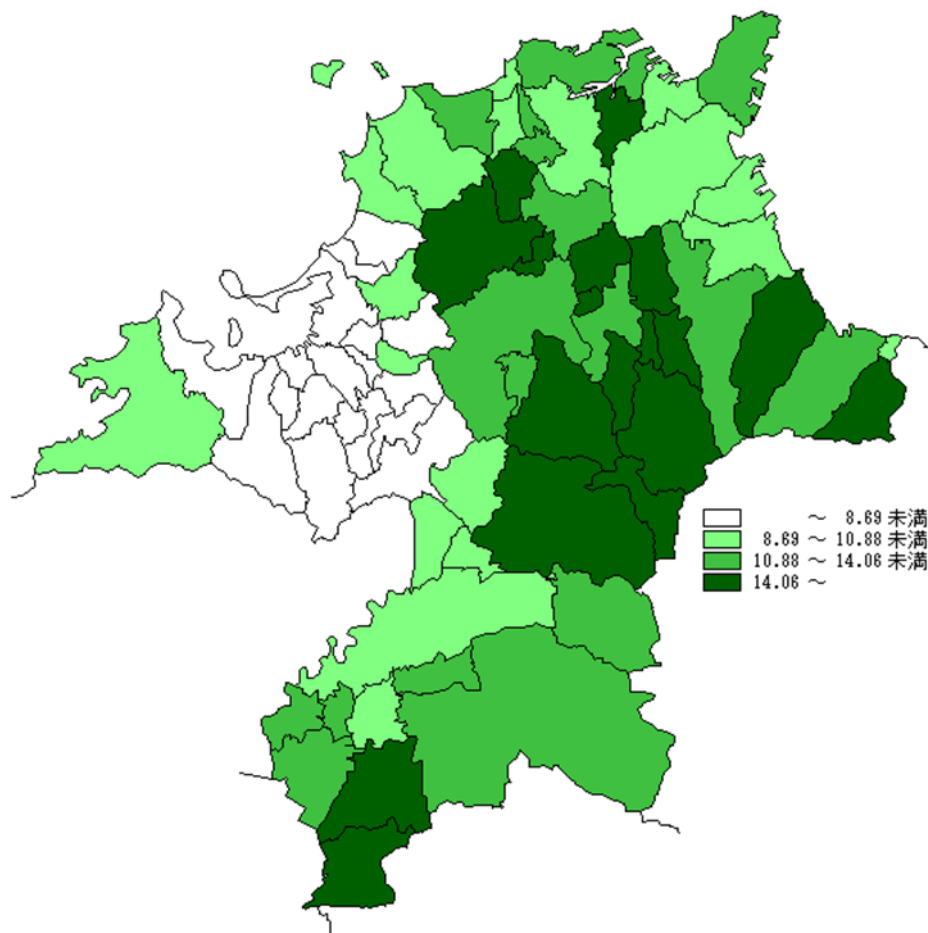


図 3.1 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）

(2) 主要死因

昭和45年から平成26年までの本県の主要死因別にみた死亡率を図3.2に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.3に示す。年次推移をみると、悪性新生物は一貫して上昇を続け、昭和52年以降死因順位の第1位となっている。心疾患は昭和58年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成7年に行われた死因分類及び死亡診断書記入マニュアルの改正の影響のため、平成6、7年には急激に低下した。その後、徐々に上昇傾向となり、近年はほぼ横ばいである。肺炎は、昭和45年から上昇傾向で、平成18年には脳血管疾患を抜いて第3位となった。脳血管疾患は、昭和45年から低下傾向にあったが、心疾患と同様の理由のため、平成7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。年齢構成を補正した年齢調整死亡率の年次推移では、近年は総じて低下傾向にある。

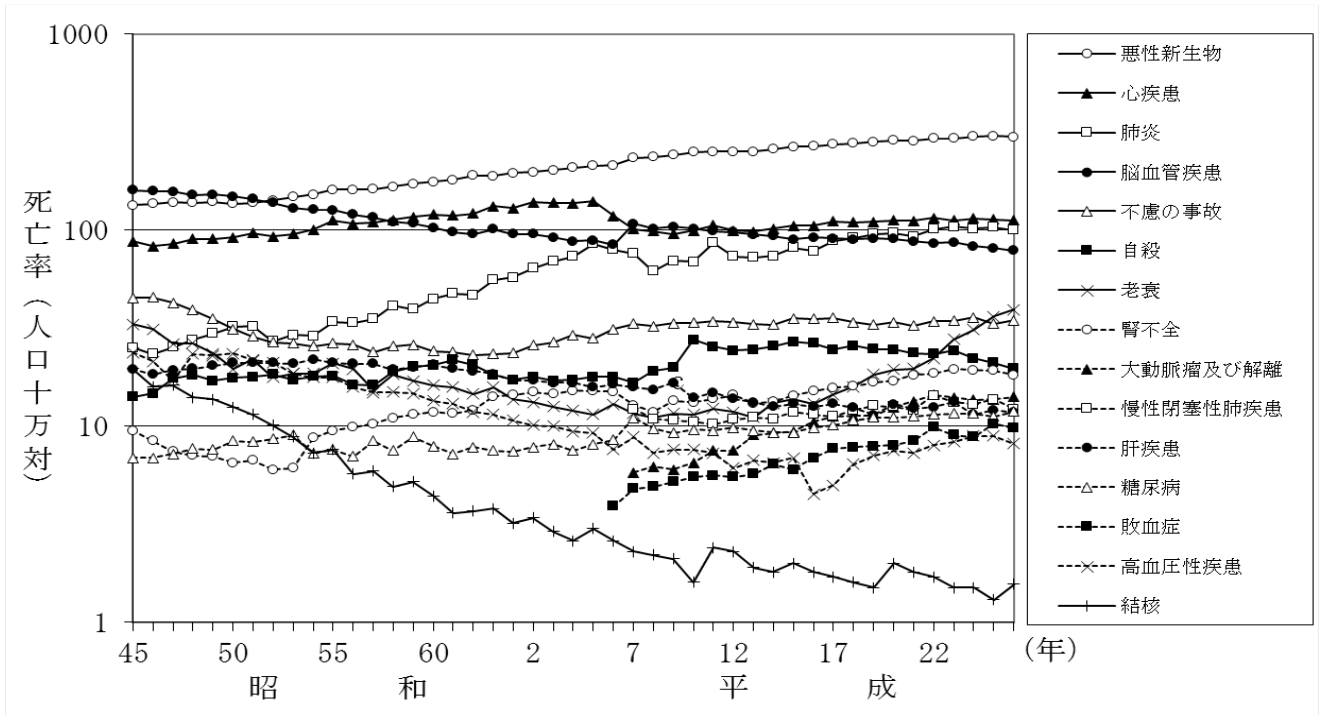


図 3.2 主要死因別にみた死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

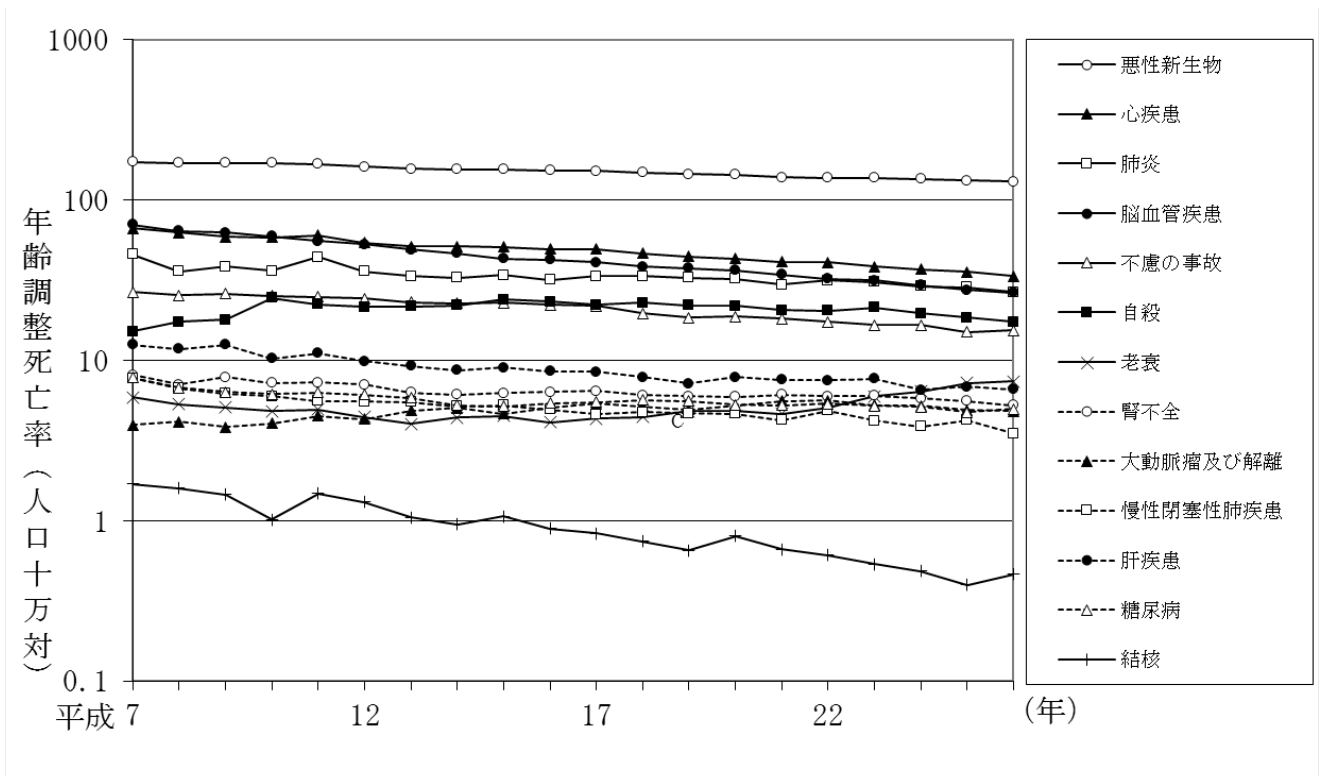


図 3.3 主要死因別にみた年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

死因別順位別にみた死亡数及び死亡率を第3.3表に示す。平成26年の本県の死因別順位をみると、1位は悪性新生物の15,087人（人口10万対299.0）、2位は心疾患の5,666人（112.3）、3位は肺炎の5,044人（100.0）、4位は脳血管疾患の3,975人（78.8）であり、8位までは昨年と同様だった。

第3.3表 死因・順位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

上段：死亡数（人）
下段：死亡率（人口10万対）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
昭和60年	悪性新生物 8,350 175.7	心疾患 5,710 120.1	脳血管疾患 4,894 103.0	肺炎・気管支炎 2,121 44.6	不慮の事故・有害作用 1,144 24.1	慢性肝疾患・肝硬変 980 20.6	自殺 968 20.4	老衰 768 16.2	高血圧性疾患 644 13.5	腎炎、ネフローゼ症候群・ネフローゼ 560 11.8
平成2年	悪性新生物 9,474 198.0	心疾患 6,631 138.6	脳血管疾患 4,567 95.5	肺炎・気管支炎 3,057 63.9	不慮の事故・有害作用 1,239 25.9	自殺 853 17.8	慢性肝疾患・肝硬変 816 17.1	腎炎、ネフローゼ症候群・ネフローゼ 711 14.9	老衰 630 13.2	高血圧性疾患 483 10.1
平成7年	悪性新生物 11,414 233.1	脳血管疾患 5,270 107.6	心疾患 4,954 101.2	肺炎 3,725 76.1	不慮の事故 1,630 33.3	自殺 814 16.6	肝疾患 772 15.8	腎不全 626 12.8	慢性閉塞性肺疾患 598 12.2	老衰 567 11.6
平成12年	悪性新生物 12,503 250.8	心疾患 4,941 99.1	脳血管疾患 4,863 97.6	肺炎 3,666 73.5	不慮の事故 1,687 33.8	自殺 1,213 24.3	腎不全 717 14.4	肝疾患 688 13.8	老衰 586 11.8	慢性閉塞性肺疾患 536 10.8
平成17年	悪性新生物 13,700 273.4	心疾患 5,545 110.7	脳血管疾患 4,544 90.7	肺炎 4,408 88.0	不慮の事故 1,784 35.6	自殺 1,235 24.6	腎不全 789 15.7	老衰 726 14.5	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 561 11.2
平成18年	悪性新生物 13,903 277.2	心疾患 5,486 109.4	肺炎 4,557 90.9	脳血管疾患 4,503 89.8	不慮の事故 1,699 33.9	自殺 1,291 25.7	腎不全 800 16.0	老衰 796 15.9	肝疾患 621 12.4	慢性閉塞性肺疾患 608 12.1
平成19年	悪性新生物 14,130 281.7	心疾患 5,524 110.1	肺炎 4,799 95.7	脳血管疾患 4,551 90.7	不慮の事故 1,644 32.8	自殺 1,241 24.7	老衰 919 18.3	腎不全 836 16.7	慢性閉塞性肺疾患 636 12.7	肝疾患 571 11.4
平成20年	悪性新生物 14,328 285.8	心疾患 5,610 111.9	肺炎 4,826 96.3	脳血管疾患 4,527 90.3	不慮の事故 1,701 33.9	自殺 1,227 24.5	老衰 971 19.4	腎不全 852 17.0	肝疾患 649 12.9	慢性閉塞性肺疾患 633 12.6
平成21年	悪性新生物 14,312 285.4	心疾患 5,584 111.4	肺炎 4,656 92.9	脳血管疾患 4,404 87.8	不慮の事故 1,636 32.6	自殺 1,185 23.6	老衰 990 19.7	腎不全 915 18.2	大動脈瘤及び解離 670 13.4	肝疾患 618 12.3
平成22年	悪性新生物 14,769 293.6	心疾患 5,791 115.1	肺炎 5,076 100.9	脳血管疾患 4,316 85.8	不慮の事故 1,724 34.3	自殺 1,173 23.3	老衰 1,116 22.2	腎不全 932 18.5	大動脈瘤及び解離 726 14.4	慢性閉塞性肺疾患 721 14.3
平成23年	悪性新生物 14,754 292.9	心疾患 5,660 112.3	肺炎 5,226 103.7	脳血管疾患 4,366 86.7	不慮の事故 1,738 34.5	老衰 1,395 27.7	自殺 1,224 24.3	腎不全 980 19.5	大動脈瘤及び解離 703 14.0	肝疾患 668 13.3
平成24年	悪性新生物 15,153 300.4	心疾患 5,773 114.5	肺炎 5,120 101.5	脳血管疾患 4,180 82.9	不慮の事故 1,805 35.8	老衰 1,563 31.0	自殺 1,119 22.2	腎不全 973 19.3	大動脈瘤及び解離 688 13.6	慢性閉塞性肺疾患 650 12.9
平成25年	悪性新生物 15,187 300.9	心疾患 5,726 113.5	肺炎 5,208 103.2	脳血管疾患 4,068 80.6	老衰 1,830 36.3	不慮の事故 1,679 33.3	自殺 1,067 21.1	腎不全 967 19.2	慢性閉塞性肺疾患 693 13.7	大動脈瘤及び解離 689 13.7
平成26年	悪性新生物 15,087 299.0	心疾患 5,666 112.3	肺炎 5,044 100.0	脳血管疾患 3,975 78.8	老衰 1,987 39.4	不慮の事故 1,751 34.7	自殺 993 19.7	腎不全 922 18.3	大動脈瘤及び解離 710 14.1	慢性閉塞性肺疾患 617 12.2

注：昭和55年～平成2年まではICD-9、平成7年からはICD-10による分類である。

総死亡数に占める各主要死因の構成割合を図3.4に示す。平成26年に本県で最も多かった死因は悪性新生物の30.6%だった。次いで心疾患の11.5%、肺炎の10.2%の順だった。

性・主要死因別にみた死亡数、死亡率及び死亡率性比を第3.4表に示す。平成26年の本県の全死因

死亡数及び死亡率をみると、男が24,716人（人口10万対1,038.1）、女が24,601人（923.1）だった。男で最も多かった死因は悪性新生物の8,497人（356.9）だった。次いで肺炎の2,581人（108.4）、心疾患の2,334人（98.0）、脳血管疾患の1,899人（79.8）、不慮の事故の951人（39.9）の順だった。また、女で最も多かった死因は悪性新生物の6,590人（247.3）だった。次いで心疾患の3,332人（125.0）、肺炎の2,463人（92.4）、脳血管疾患の2,076人（77.9）、老衰の1,571人（58.9）の順だった。死亡率性比でみると慢性閉塞性肺疾患は3.68、自殺は2.92、肝疾患は1.78であり、男に多い死因といえる。逆に老衰や高血圧性疾患は死亡率性比がそれぞれ0.30、0.69で女に多い。

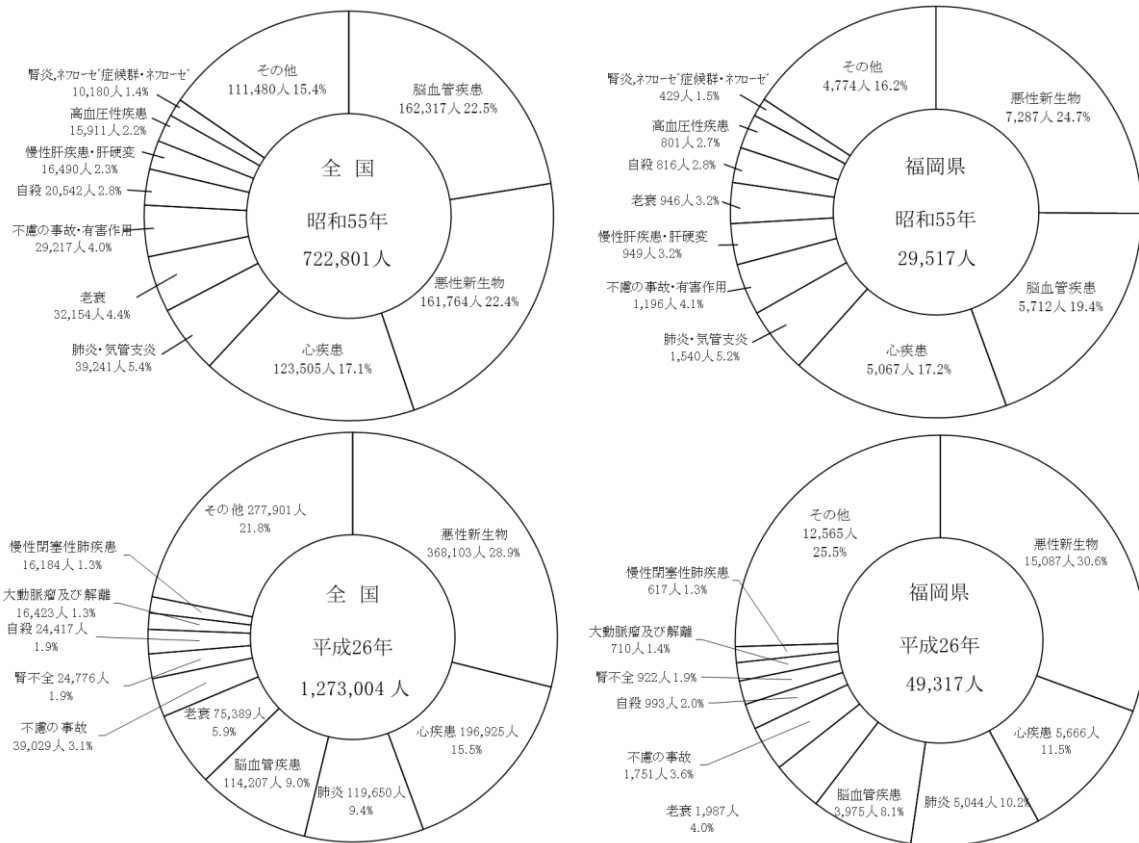


図3.4 死亡数に占める各主要死因の構成割合

第3.4表 性・主要死因別にみた死亡数・死亡率(人口10万対)・死亡率性比(平成26年・福岡県)

死因	男		女		死亡率性比
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
総数	24,716	1038.1	24,601	923.1	1.12
悪性新生物	8,497	356.9	6,590	247.3	1.44
肺炎	2,581	108.4	2,463	92.4	1.17
心疾患	2,334	98.0	3,332	125.0	0.78
脳血管疾患	1,899	79.8	2,076	77.9	1.02
不慮の事故	951	39.9	800	30.0	1.33
自殺	718	30.2	275	10.3	2.92
慢性閉塞性肺疾患	473	19.9	144	5.4	3.68
老衰	416	17.5	1,571	58.9	0.30
腎不全	409	17.2	513	19.2	0.89
肝疾患	364	15.3	229	8.6	1.78
糖尿病	333	14.0	265	9.9	1.41
大動脈瘤及び解離	324	13.6	386	14.5	0.94
敗血症	216	9.1	276	10.4	0.88
高血圧性疾患	157	6.6	254	9.5	0.69

注：1) 人口は「平成26年人口動態統計上巻 年次・都道府県・性別人口」(厚労省)を使用(男：2,381,000人、女：2,665,000人)。

2) 死亡率性比＝男の死亡率/女の死亡率。男の死亡率が女の死亡率の何倍にあたるかを表す。

(3) 三大死因

1) 悪性新生物

悪性新生物の主な部位別死亡数を第3.5表に示す。本県の悪性新生物の死亡数は昭和55年以降平成20年まで常に増加していたが、平成21年、23年に微減した。平成26年は前年より100人減少し、15,087人だった。また、死亡率（人口10万対）は299.0で前年の300.9を下回った。

第3.5表 主要部位別にみた悪性新生物の死亡数の推移（福岡県）

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸・S状移行部	肝及び肝内胆管	胆のう及び他の胆道	膵	気管、気管支及び肺	乳房	子宮	卵巣	前立腺	白血病	その他
昭和55年	7,287	232	2,097	350	267	893	236	343	1,004	182	287	84	78	202	1,032
〃 60年	8,350	205	1,878	511	316	1,300	433	420	1,308	213	240	102	88	192	1,144
平成2年	9,474	258	1,751	628	379	1,637	486	538	1,610	245	201	122	124	245	1,250
〃 7年	11,414	287	1,901	799	425	2,008	572	664	2,020	310	226	146	203	292	1,561
〃 12年	12,503	386	1,916	980	413	2,020	590	708	2,275	389	238	140	304	335	1,809
〃 17年	13,700	402	1,858	1,140	510	2,079	632	813	2,637	495	206	167	326	359	2,076
〃 18年	13,903	417	1,959	1,148	489	2,024	704	877	2,551	492	261	188	372	349	2,072
〃 19年	14,130	411	1,905	1,108	501	2,017	660	1,020	2,742	489	238	173	363	402	2,101
〃 20年	14,328	458	1,850	1,149	534	2,009	698	1,012	2,786	520	243	171	393	368	2,137
〃 21年	14,312	408	1,906	1,141	505	1,872	777	985	2,743	485	225	184	420	406	2,255
〃 22年	14,769	461	1,839	1,268	548	1,852	736	1,075	2,888	546	259	180	424	352	2,341
〃 23年	14,754	451	1,780	1,285	565	1,767	761	1,140	2,973	543	268	154	390	383	2,294
〃 24年	15,153	429	1,828	1,320	603	1,777	758	1,149	2,981	567	265	158	426	365	2,527
〃 25年	15,187	432	1,830	1,324	583	1,675	733	1,242	3,002	568	257	168	470	391	2,512
〃 26年	15,087	455	1,711	1,342	576	1,661	728	1,224	2,961	536	275	168	413	397	2,640

注：1) 平成7年からはICD-10の分類区分に基づき集計した。それ以前は、厚生省が作成したICD-9とICD-10の新旧比較表をもとに、ICD-10の分類に変換して集計した。

2) 乳房は女のみの数値であり、男の乳房の数値はその他に計上している。

本県の悪性新生物の性・部位別死亡割合を図3.5に示す。平成26年の本県の悪性新生物による死亡数は、男が8,497人、女が6,590人だった。また、構成割合をみると、男女ともに気管・気管支及び肺、胃、肝及び肝内胆管、結腸が多く、これら4部位による死亡数が全体に占める割合は、男が54.8%、女が45.8%だった。

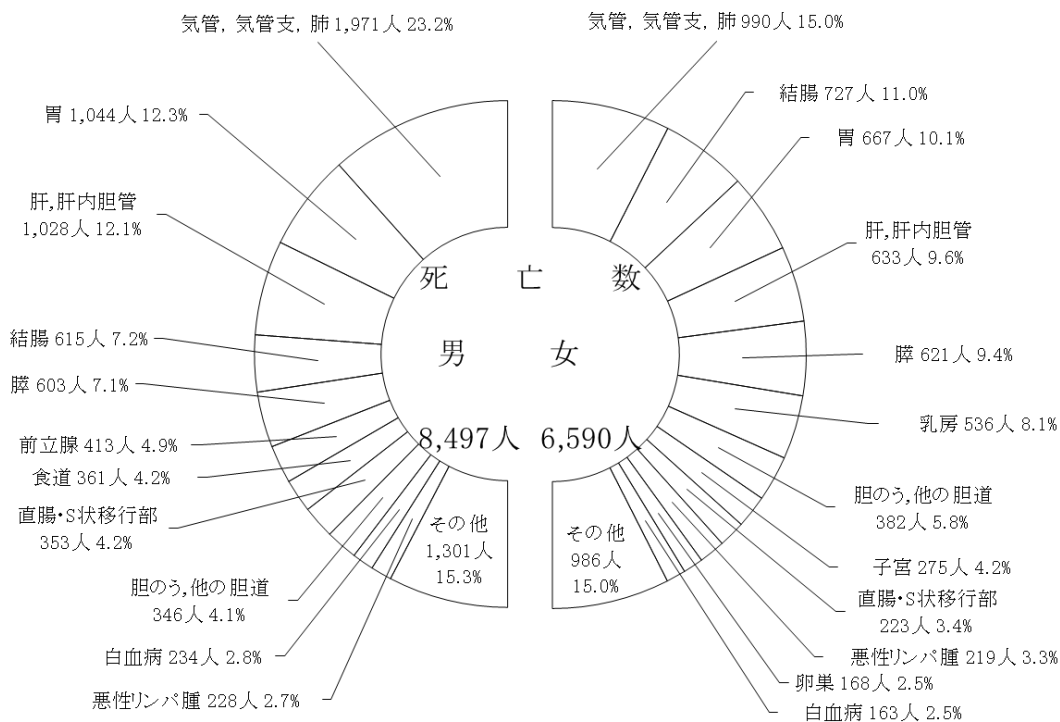


図3.5 性・部位別にみた悪性新生物の死亡数・構成割合（平成26年・福岡県）

本県の昭和55年から平成26年までの悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）を図3.6に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.7に示す。

図3.6の結腸、膵、乳房、前立腺の死亡率は増加傾向にあるが、図3.7の年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、いずれも横ばい状態となっている。

なお、胃や肝及び肝内胆管は年齢調整死亡率でも減少傾向にある。

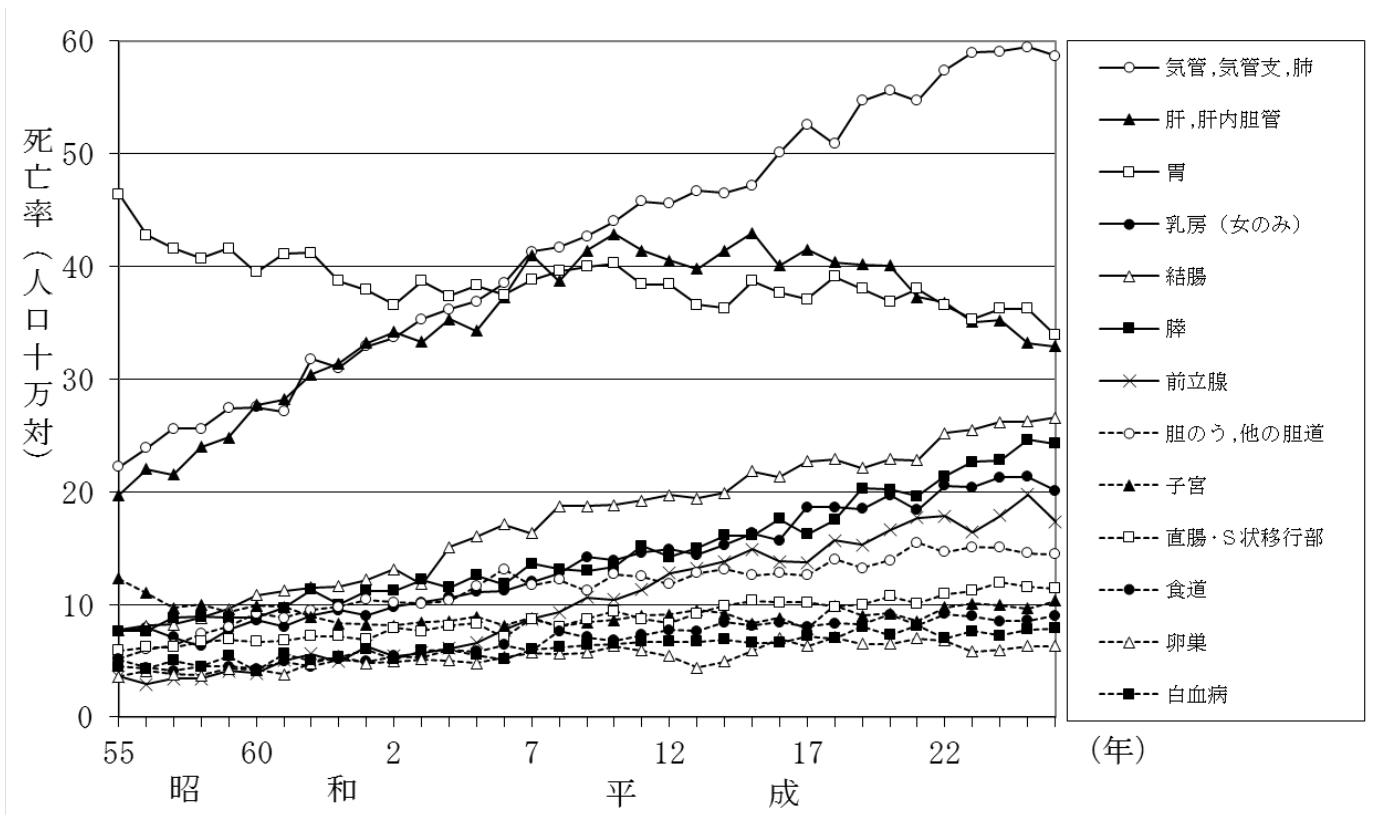


図3.6 主要部位別にみた悪性新生物の死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

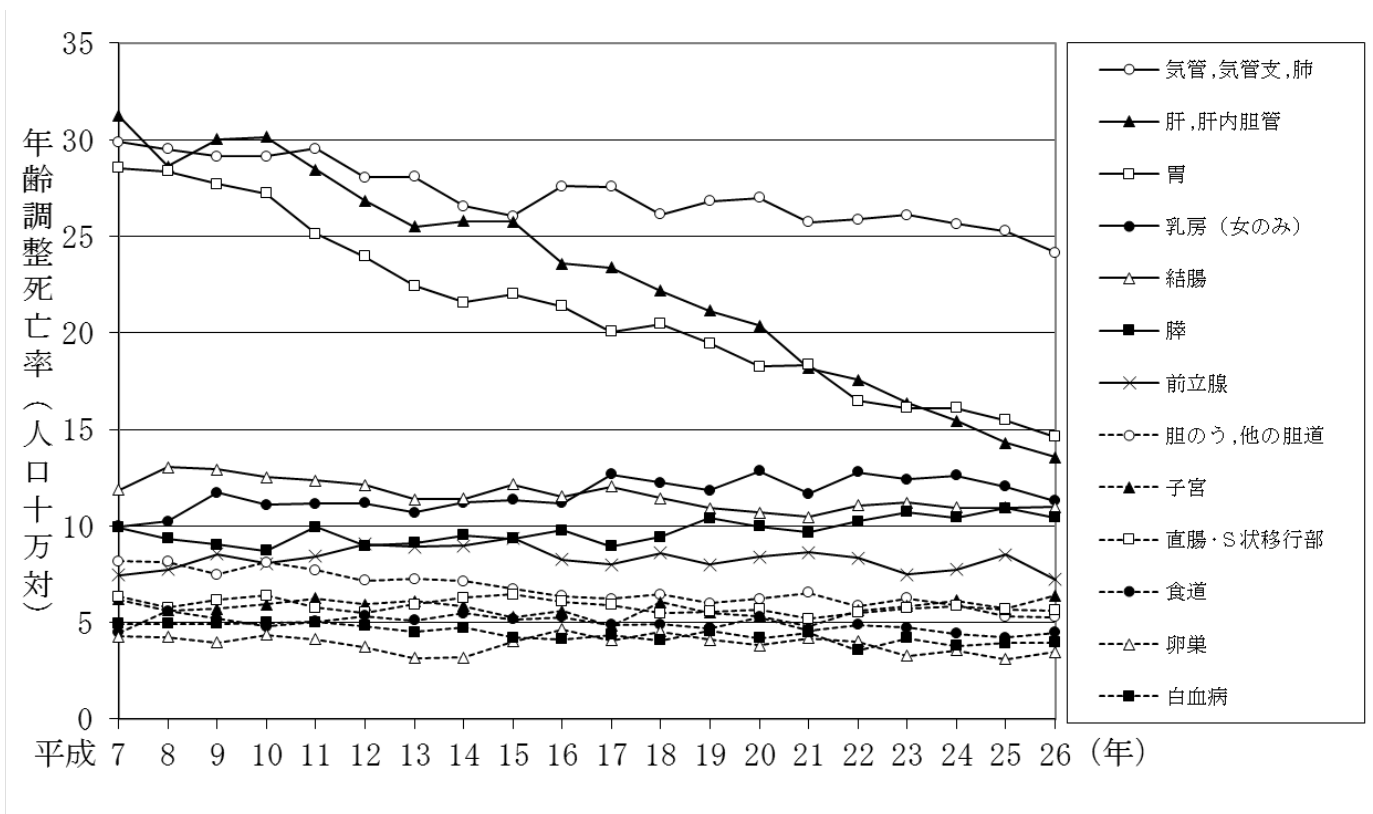


図3.7 主要部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

2) 心疾患

心疾患の死因別割合を図 3.8 に示す。平成 26 年の本県の心疾患による死亡数は 5,666 人で前年の 5,726 人に比べ 60 人減少した。また、心疾患死亡数の構成割合をみると、最も多かったのは心不全の 2,155 人 (38.0%) だった。次いで急性心筋梗塞の 1,163 人 (20.5%)、不整脈,伝導障害の 821 人 (14.5%) の順だった。

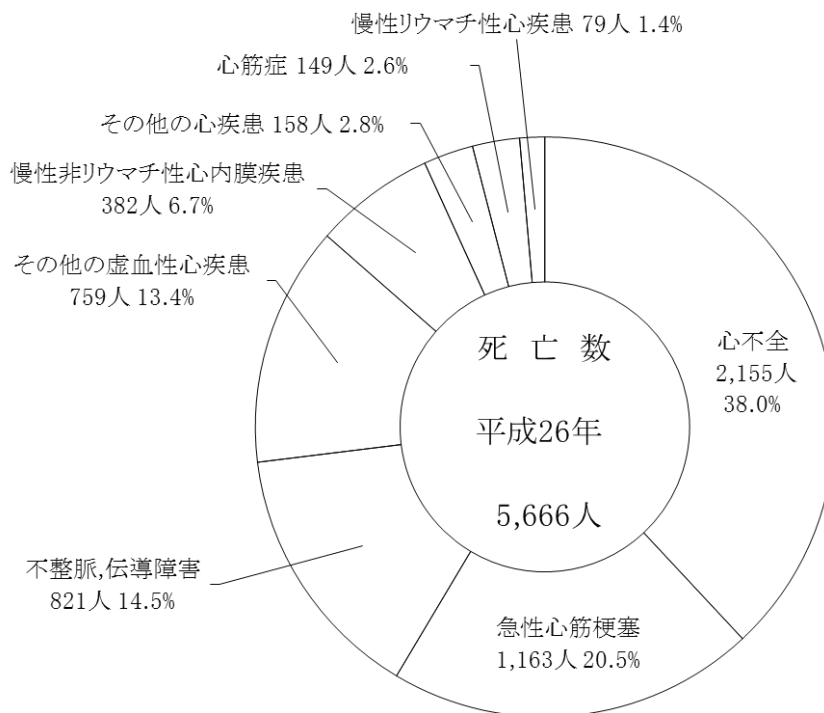


図 3.8 心疾患の死因別にみた割合 (平成 26 年・福岡県)

3) 脳血管疾患

脳血管疾患の死因別割合を図 3.9 に示す。平成 26 年の本県の脳血管疾患による死亡数は 3,975 人で前年の 4,068 人に比べ 93 人減少した。また、脳血管疾患の構成割合をみると、最も多かったのは脳梗塞 2,286 人 (57.5%) だった。次いで脳内出血の 1,119 人 (28.2%)、くも膜下出血の 426 人 (10.7%) の順だった。

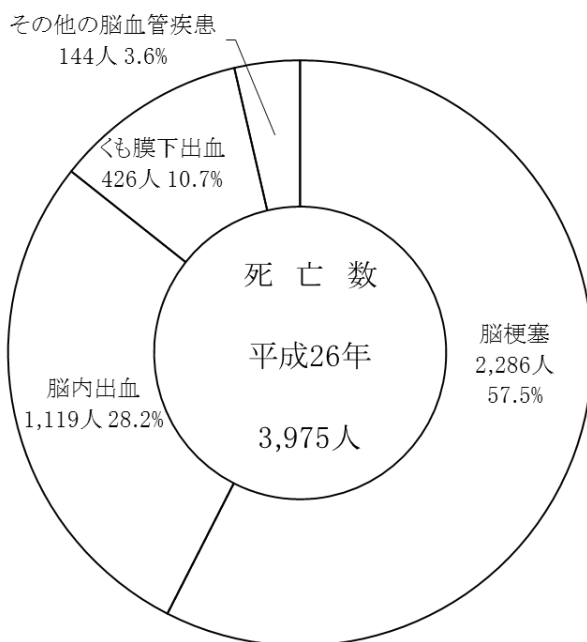


図 3.9 脳血管疾患の死因別にみた割合 (平成 26 年・福岡県)

(4) 乳児死亡

乳児死亡を死亡統計でとりあげるのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、乳児死亡率はその地域の衛生状態の良否、ひいては経済や教育を含めた社会状態を反映する指標の一つと考えられるからである。

乳児死亡数（率）の推移を第3.6表に示す。平成26年の本県の乳児死亡数は99人、乳児死亡率は2.2だった。

第3.6表 乳児死亡数・乳児死亡率（出生千対）の推移

年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率		年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和22年	8,748	80.8	76.7	〃 17年	109	2.5	2.8
〃 25年	5,715	52.4	60.1	〃 18年	90	2.0	2.6
〃 30年	2,539	33.2	39.8	〃 19年	110	2.4	2.6
〃 35年	1,828	27.2	30.7	〃 20年	105	2.2	2.6
〃 40年	1,154	16.8	18.5	〃 21年	107	2.3	2.4
〃 45年	869	12.5	13.1	〃 22年	105	2.2	2.3
〃 50年	568	8.0	10.0	〃 23年	116	2.5	2.3
〃 55年	442	6.9	7.5	〃 24年	94	2.1	2.2
〃 60年	324	5.5	5.5	〃 25年	103	2.2	2.1
平成 2年	223	4.6	4.6	〃 26年	99	2.2	2.1
〃 7年	230	4.9	4.3				
〃 12年	162	3.4	3.2				

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

死因別にみた乳児死亡数と構成割合を図3.10に示す。本県で最も多かったのは先天奇形、変形、染色体異常の29人（29.3%）だった。次いで乳幼児突然死症候群の15人（15.2%）、周産期の呼吸障害、心血管障害の12人（12.1%）、周産期に特異的な感染症の4人（4.0%）の順だった。

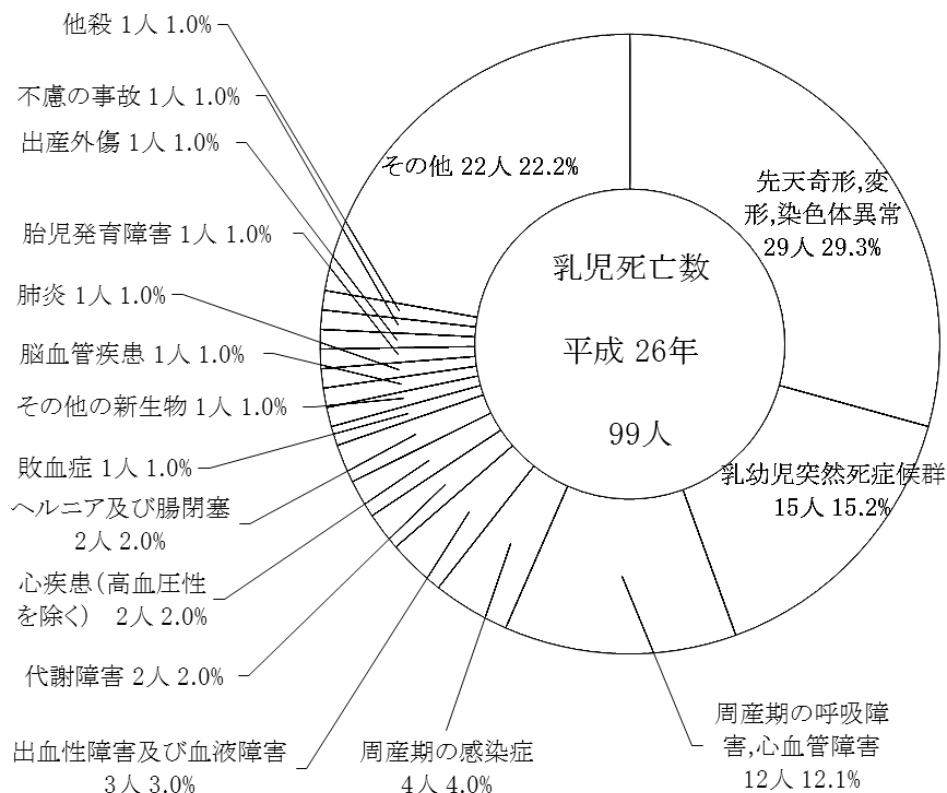


図3.10 乳児死亡の死因別割合 (平成26年・福岡県)

平成 26 年の本県の保健所管内別にみた乳児死亡率を図 3.11 に示す。乳児死亡率が最も低かったのは東区の 0.67 で、次いで、西区の 1.01、博多区の 1.30、北筑後の 1.34、久留米市の 1.72 の順だった。

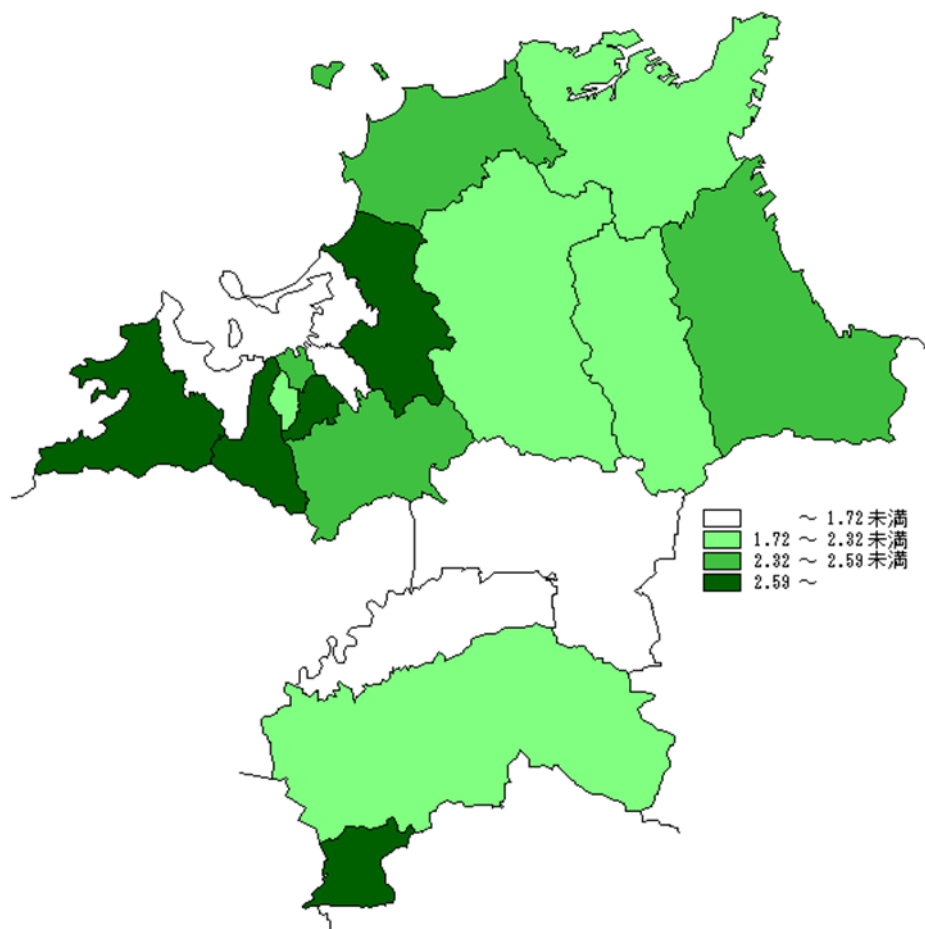


図 3.11 保健所管内別にみた乳児死亡率（出生千対）（平成 26 年・福岡県）

(5) 周産期死亡

周産期死亡を死亡統計でとりあげるのは、妊娠 22 週以後の死産と早期新生児死亡がともに母体の健康状態に強く影響されるためであり、1950 年以降 WHO によって提唱されたものである。

周産期死亡数及び周産期死亡率の推移を第 3.7 表に示す。平成 26 年の本県の周産期死亡数は 170 人、周産期死亡率（出産千対）は 3.7 だった。

第 3.7 表 周産期死亡数・周産期死亡率の推移

年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率		年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和35年	3,161	47.0	41.4	// 18年	177	3.9	4.7
// 40年	2,315	33.6	30.1	// 19年	202	4.3	4.5
// 45年	1,654	23.8	21.7	// 20年	201	4.3	4.3
// 50年	1,085	15.3	16.0	// 21年	186	4.0	4.2
// 55年	687	10.7	11.7	// 22年	200	4.3	4.2
// 60年	443	7.5	8.0	// 23年	202	4.4	4.1
平成 2年	292	6.1	5.7	// 24年	194	4.2	4.0
// 7年	295	6.3	7.0	// 25年	157	3.4	3.7
// 12年	251	5.3	5.8	// 26年	170	3.7	3.7
// 17年	209	4.8	4.8				

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 平成7年からの周産期死亡数は妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。それ以前は妊娠満28週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。

3) 平成7年からの周産期死亡率は出産千対（出生数+妊娠満22週以後の死産）である。それ以前は出生千対である。

平成 26 年の本県の保健所管内別の周産期死亡率を図 3.12 に示す。周産期死亡率が最も低かったのは西区の 1.01 で、次いで、博多区の 2.60、城南区の 2.66、田川の 2.86、東区の 3.03 の順だった。

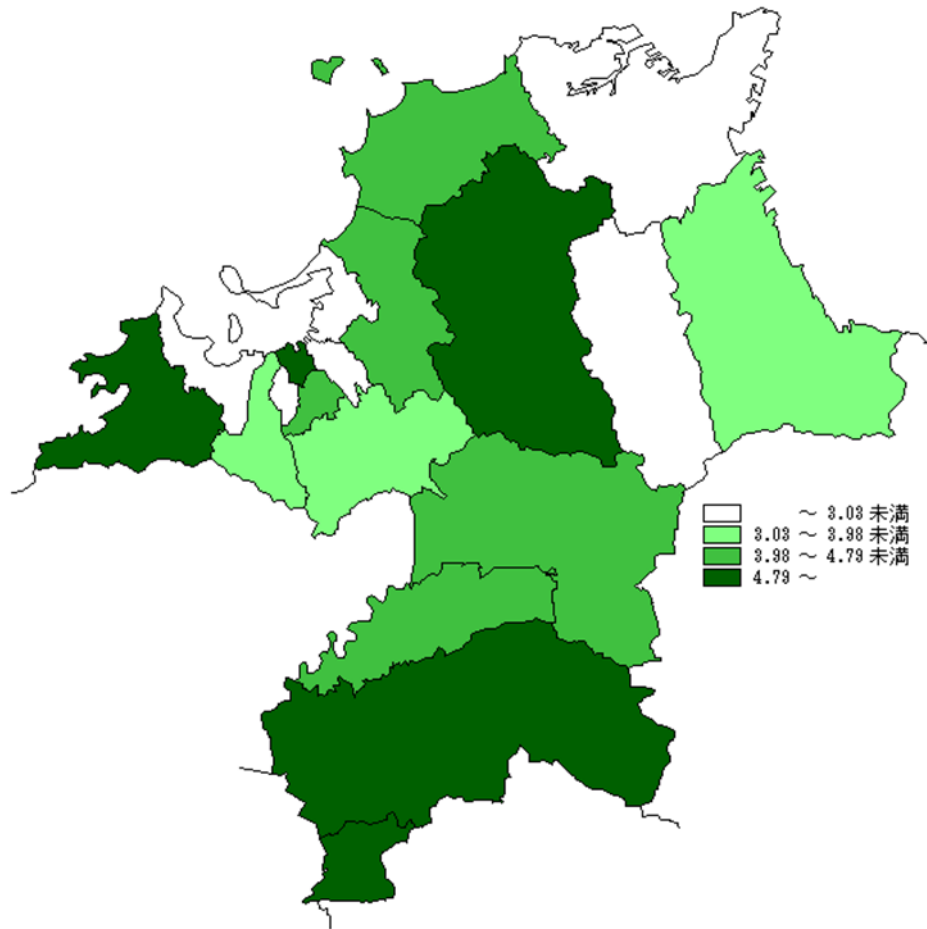


図 3.12 保健所管内別にみた周産期死亡率（出産千対）（平成 26 年・福岡県）

(6) 高齢者（65 歳以上）死亡

65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移を第 3.8 表及び図 3.13 に示す。死亡数は年々増加しているものの、高齢者人口も増加しているために死亡率としては減少もしくは横ばいの傾向にある。平成 26 年推計人口（県調査統計課）によると、本県の 65 歳以上の日本人人口は 1,264,605 人で、全年齢人口の 25.1%を占めている。平成 26 年の 65 歳以上の死亡数は 43,145 人、死亡率（人口千対）は 34.1 だった。

第 3.8 表 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率（人口千対）の推移

年次	福岡県		全国		年次	福岡県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率		死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和45年	16,738	57.1	438,362	60.0	〃 19年	36,691	34.8	923,666	33.8
〃 50年	17,897	50.4	459,385	52.0	〃 20年	37,731	35.0	960,917	34.2
〃 55年	20,097	47.1	503,067	47.4	〃 21年	37,832	34.2	964,863	33.4
〃 60年	21,463	43.0	535,260	43.3	〃 22年	39,923	35.8	1,019,825	34.7
平成 2年	24,526	41.0	604,674	40.7	〃 23年	40,830	36.1	1,067,143	36.0
〃 7年	28,398	39.1	704,092	38.7	〃 24年	42,039	35.9	1,088,049	35.5
〃 12年	30,465	35.1	757,558	34.5	〃 25年	42,929	35.3	1,108,045	34.9
〃 17年	34,807	35.0	888,240	34.6	〃 26年	43,145	34.1	1,121,260	34.1
〃 18年	35,681	34.8	895,829	33.8					

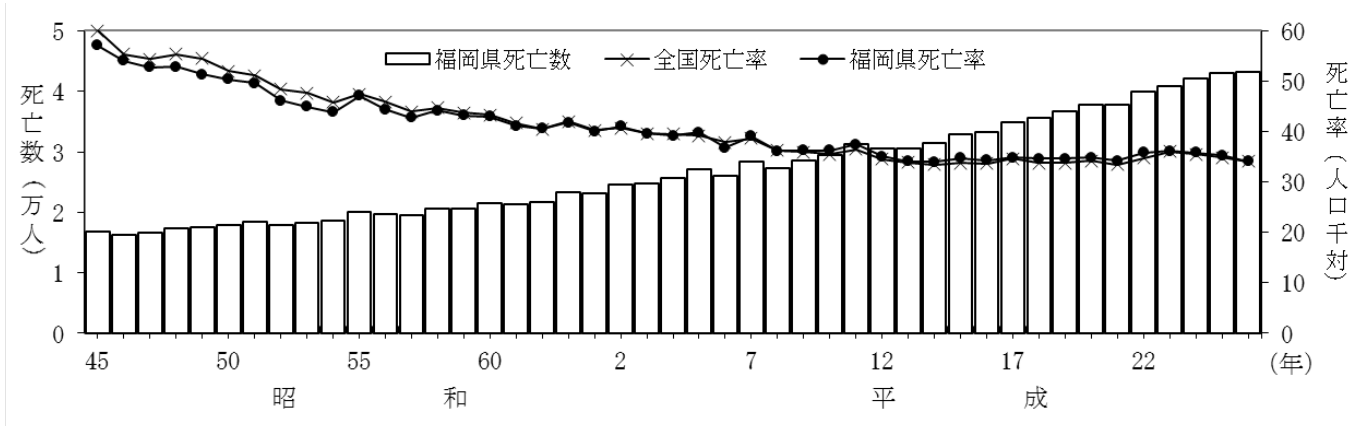


図 3.13 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移

65 歳以上の高齢者の性別・死因別にみた死亡数及び死亡割合を図 3.14 に示す。平成 26 年の本県の 65 歳以上の高齢者における死亡数は、男が 20,659 人、女が 22,486 人だった。性別・死因別の死亡数をみると、男で最も多かったのは悪性新生物の 7,005 人 (33.9%) だった。次いで肺炎の 2,486 人 (12.0%)、心疾患の 2,050 人 (9.9%) の順だった。また、女で最も多かったのは悪性新生物の 5,459 人 (24.3%) だった。次いで心疾患の 3,231 人 (14.4%)、肺炎の 2,420 人 (10.8%) の順だった。

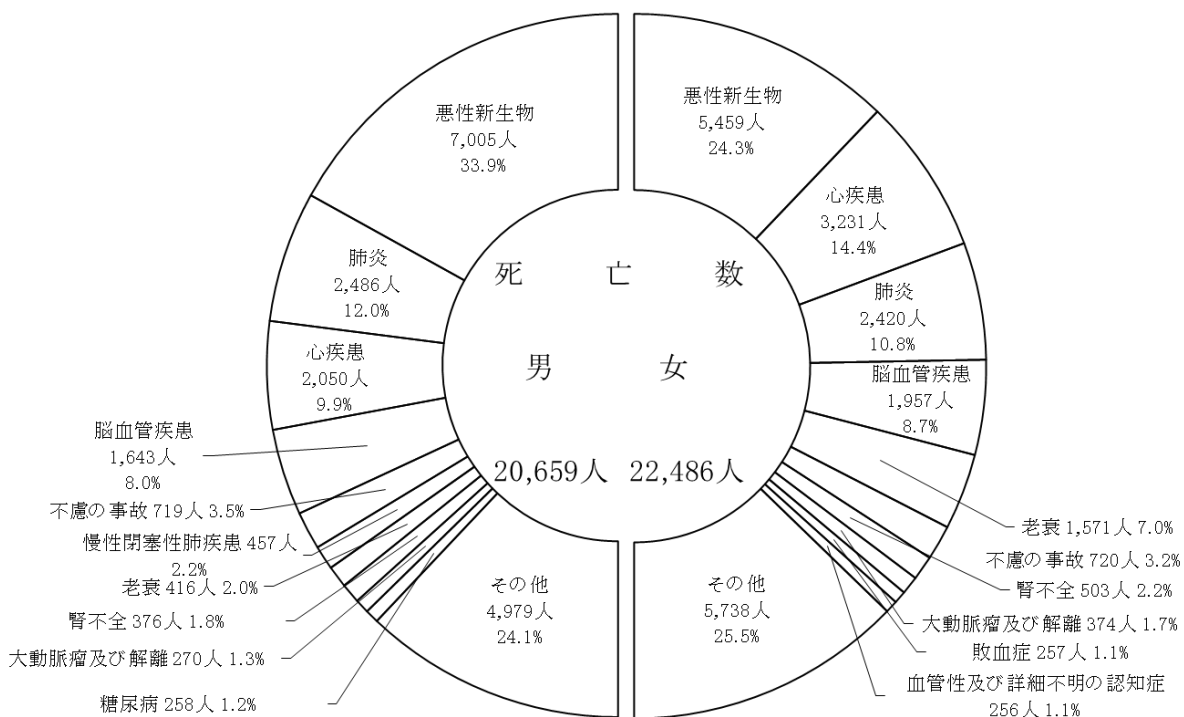


図 3.14 65 歳以上の高齢者における性・死因別にみた死亡数及び死亡割合 (平成 26 年・福岡県)

(7) 死亡の場所

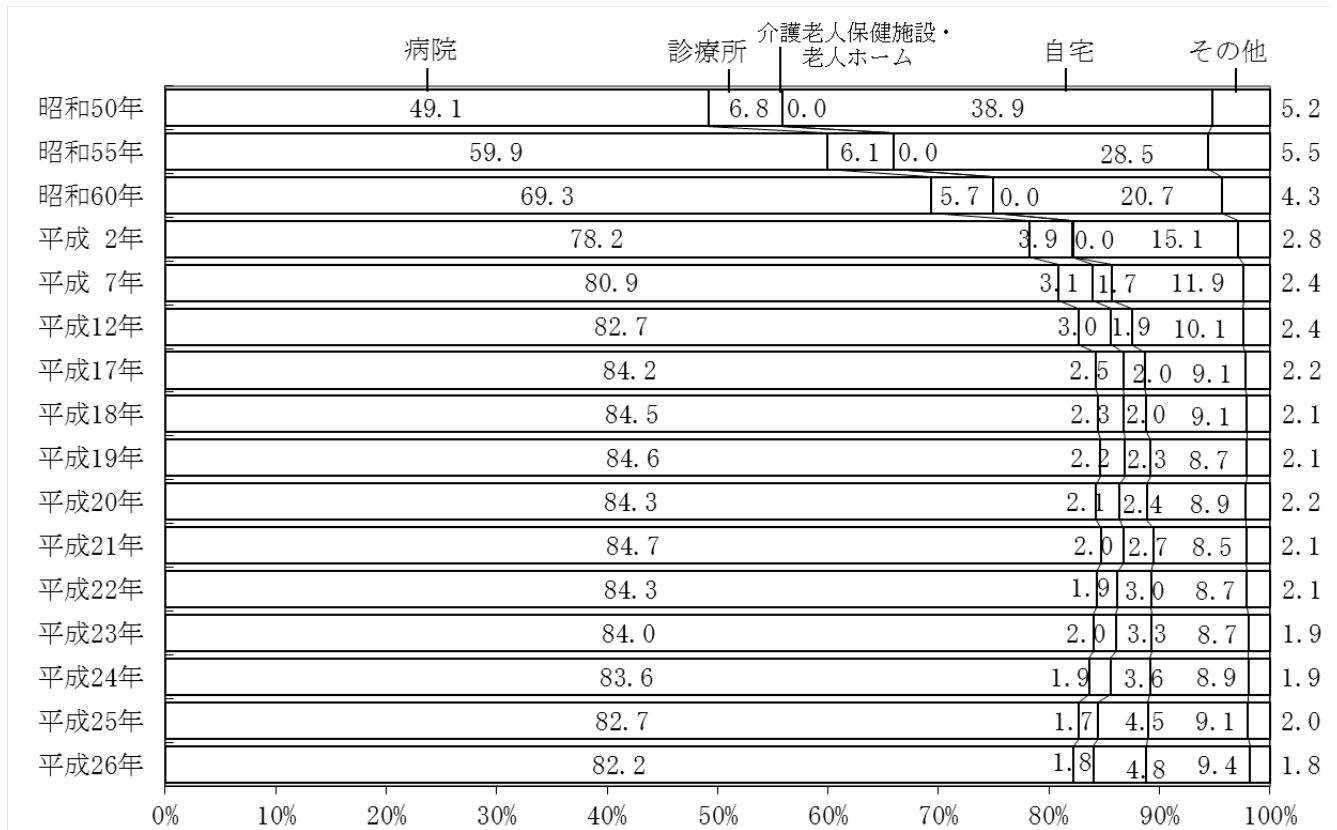
死亡場所別にみた死亡数・百分率の推移を第 3.9 表及び図 3.15 に示す。平成 26 年の本県の状況をみると、最も多かったのは病院の 40,557 人 (82.2%) だった。いわゆる在宅 (介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅) での死亡数は 7,001 人 (14.2%) であり、前年の 6,717 人 (13.6%) に比べ、実数及び率ともに増加した。福岡県の在宅看取り率は、平成 26 年は 14.2% と微増したが、全国と比べると常に下回って推移している。

第 3.9 表 死亡場所別にみた死亡数・施設及び自宅での死亡割合の推移（福岡県）

年次	総数	施設内						施設外			施設及び自宅での死亡割合	
		総数	病院	診療所	介護老人保健施設	助産所	老人ホーム	総数	自宅	その他	福岡県	全国
昭和50年	27,576	15,421	13,551	1,866	・	4	・	12,155	10,713	1,442	38.8	47.7
" 55年	29,517	19,475	17,677	1,793	・	5	・	10,042	8,405	1,637	28.5	38.0
" 60年	30,888	23,158	21,407	1,750	・	1	・	7,730	6,389	1,341	20.7	28.3
平成 2年	33,595	27,583	26,272	1,302	8	1	・	6,012	5,058	954	15.1	21.7
" 7年	37,158	31,856	30,053	1,159	54	0	590	5,302	4,421	881	13.6	20.1
" 12年	38,505	33,688	31,831	1,142	193	0	522	4,817	3,888	929	12.0	16.2
" 17年	42,675	37,845	35,944	1,063	245	1	592	4,830	3,874	956	11.0	15.1
" 18年	43,270	38,427	36,555	1,000	260	0	612	4,843	3,949	894	11.1	15.3
" 19年	43,919	39,182	37,173	981	285	0	743	4,737	3,815	922	11.0	15.7
" 20年	45,134	40,106	38,040	961	307	0	798	5,028	4,037	991	11.4	16.5
" 21年	44,879	40,132	38,012	903	348	0	869	4,747	3,794	953	11.2	16.8
" 22年	46,996	41,947	39,629	886	451	0	981	5,049	4,067	982	11.7	17.4
" 23年	48,112	42,975	40,415	981	464	0	1,115	5,137	4,204	933	12.0	17.9
" 24年	48,957	43,649	40,944	942	485	0	1,278	5,308	4,370	938	12.5	19.2
" 25年	49,456	44,006	40,912	855	641	0	1,598	5,450	4,478	972	13.6	20.0
" 26年	49,317	43,793	40,557	870	594	1	1,771	5,524	4,636	888	14.2	20.6

注：1)平成6年までは老人ホームでの死亡は、自宅又はその他に含まれる。

2)施設及び自宅での死亡割合とは、全死亡における介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅における死亡の百分率(%)を示す。



注：助産所における死亡は極めて少数なので集計から除外し作図した。

図 3.15 死亡場所別にみた死亡割合の推移（福岡県）

4 死産

死産数及び死産率の推移を第 4.1 表に示す。平成 26 年の本県の死産数は 1,155 胎、死産率〔出産（出生＋死産）千対〕は 24.9 だった。また、自然死産数（自然-人工の不詳を含む）は 462 胎、自然死産率は 10.0、人工死産数は 693 胎、人工死産率は 14.9 だった。

第 4.1 表 死産数・死産率（出産千対）の推移

年次	総 数			自 然			人 工		
	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国
	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率
昭和25年	10,752	89.7	84.9	5,027	41.9	41.7	5,725	47.7	43.2
" 30年	9,947	115.2	95.8	4,269	49.4	44.5	5,678	65.7	51.3
" 35年	10,427	134.1	100.4	4,966	63.9	52.3	5,461	70.2	48.1
" 40年	7,949	103.5	81.4	4,285	55.8	47.6	3,664	47.7	33.8
" 45年	6,199	81.7	65.3	3,602	47.5	40.6	2,597	34.2	24.7
" 50年	4,793	63.2	50.8	3,009	39.7	33.8	1,784	23.5	17.1
" 55年	3,753	55.1	46.8	2,044	30.0	28.8	1,709	25.1	18.0
" 60年	3,588	57.5	46.0	1,543	24.7	22.1	2,045	32.8	23.9
平成 2年	2,689	52.9	42.3	1,051	20.7	18.3	1,638	32.2	23.9
" 7年	1,935	39.7	32.1	683	14.0	14.9	1,252	25.7	17.2
" 12年	1,858	37.8	31.2	593	12.1	13.2	1,265	25.7	18.1
" 17年	1,605	35.6	29.1	556	12.3	12.3	1,049	23.3	16.7
" 18年	1,495	31.9	27.5	505	10.8	11.9	990	21.2	15.6
" 19年	1,451	30.3	26.2	534	11.2	11.7	917	19.2	14.5
" 20年	1,424	29.6	25.2	530	11.0	11.3	894	18.6	13.9
" 21年	1,342	28.3	24.6	503	10.6	11.1	839	17.7	13.5
" 22年	1,366	28.3	24.2	582	12.1	11.2	784	16.3	13.0
" 23年	1,314	27.6	23.9	499	10.5	11.1	815	17.1	12.8
" 24年	1,251	26.6	23.4	542	11.5	10.8	709	15.1	12.6
" 25年	1,195	25.4	22.9	472	10.0	10.4	723	15.4	12.5
" 26年	1,155	24.9	22.9	462	10.0	10.6	693	14.9	12.3

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
2) 自然死産には自然-人工の不詳を含む。

平成 26 年の本県の保健所管内別にみた死産率を図 4.1 に示す。最も死産率が低かったのは南区の 14.56 だった。次いで城南区の 15.72、西区の 17.86、東区の 18.55、早良区の 21.77 の順だった。

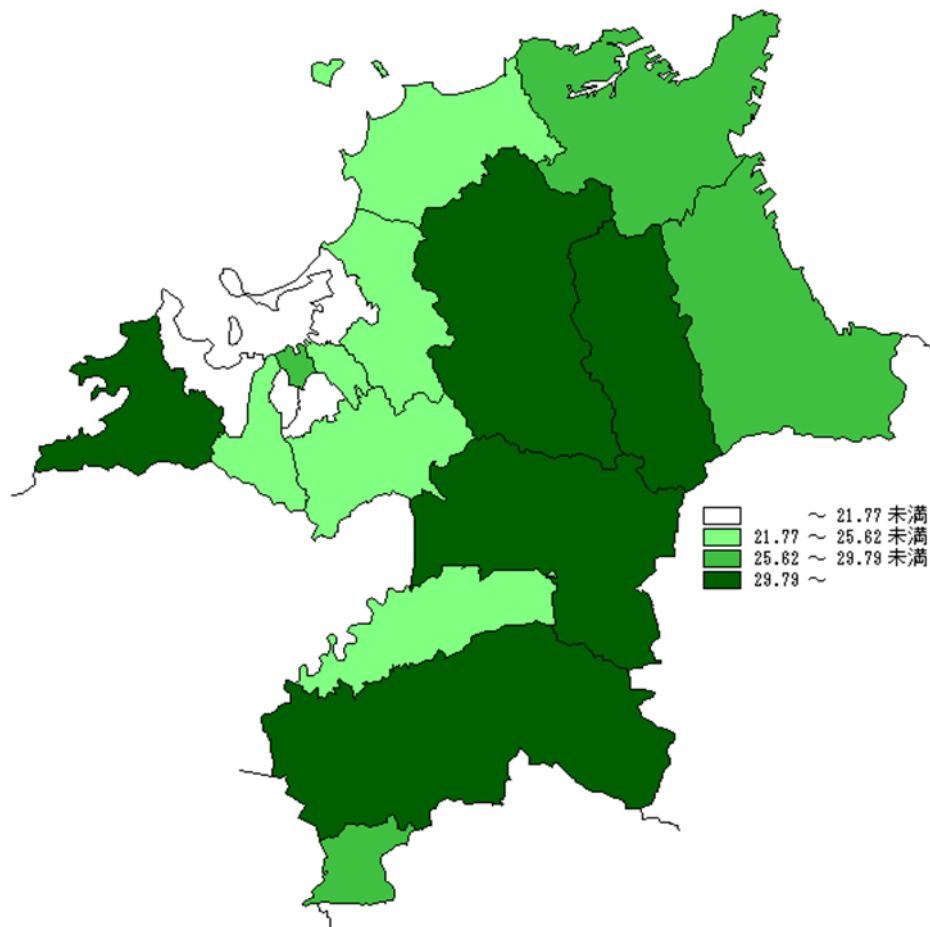


図 4.1 保健所管内別にみた死産率（出産千対）（平成 26 年・福岡県）

5 婚 姻

婚姻件数及び婚姻率の推移を第 5.1 表に示す。平成 26 年の本県の婚姻件数は 27,359 組、婚姻率（人口千対）は 5.4 だった。

第 5.1 表 婚姻件数・婚姻率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率		婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率
昭和22年	39,288	12.4	934,170	12.0	〃 17年	28,715	5.7	714,265	5.7
〃 25年	32,614	9.2	715,081	8.6	〃 18年	30,006	6.0	730,971	5.8
〃 30年	31,424	8.1	714,861	8.0	〃 19年	29,486	5.9	719,822	5.7
〃 35年	37,184	9.3	866,115	9.3	〃 20年	30,017	6.0	726,106	5.8
〃 40年	37,816	9.5	954,852	9.7	〃 21年	29,419	5.9	707,734	5.6
〃 45年	38,206	9.5	1,029,405	10.0	〃 22年	29,247	5.8	700,214	5.5
〃 50年	36,937	8.7	941,628	8.5	〃 23年	28,008	5.6	661,895	5.2
〃 55年	32,007	7.0	774,702	6.7	〃 24年	27,974	5.5	668,869	5.3
〃 60年	29,208	6.1	735,850	6.1	〃 25年	28,183	5.6	660,613	5.3
平成 2年	27,377	5.7	722,138	5.9	〃 26年	27,359	5.4	643,749	5.1
〃 7年	30,355	6.2	791,888	6.4					
〃 12年	30,640	6.1	798,138	6.4					

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 26 年の本県の市区町村別にみた婚姻率を図 5.1 に示す。最も婚姻率が高かったのは博多区の 9.74 だった。次いで中央区の 8.60、粕屋町の 7.84、小倉北区の 6.51、東区の 6.21 の順だった。

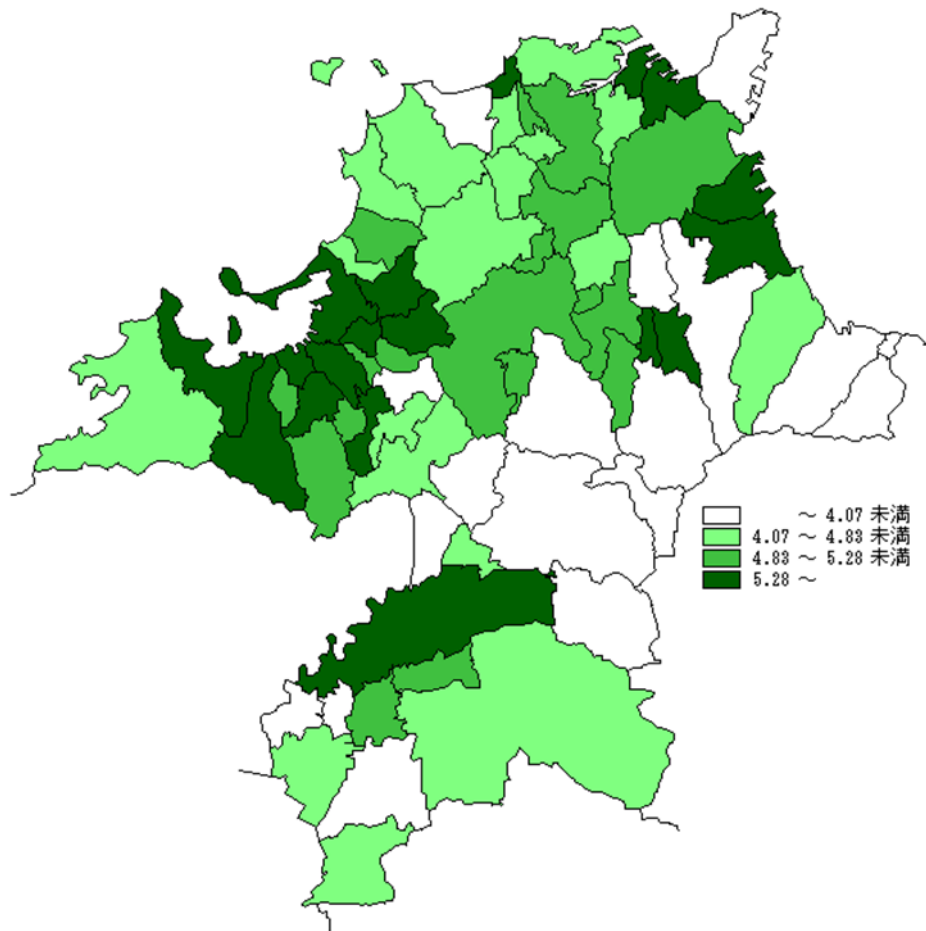


図 5.1 市区町村別にみた婚姻率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）

6 離 婚

離婚件数及び離婚率の推移を第 6.1 表に示す。平成 26 年の本県の離婚件数は 9,981 組、離婚率は 1.98 だった。

第 6.1 表 離婚件数・離婚率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率		離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率
昭和22年	3,918	1.23	79,551	1.02	〃 17年	11,567	2.31	261,917	2.08
〃 25年	4,402	1.25	83,689	1.01	〃 18年	11,291	2.25	257,475	2.04
〃 30年	4,336	1.12	75,267	0.84	〃 19年	11,115	2.22	254,832	2.02
〃 35年	3,971	0.99	69,410	0.74	〃 20年	11,037	2.20	251,136	1.99
〃 40年	4,113	1.04	77,195	0.79	〃 21年	11,121	2.22	253,353	2.01
〃 45年	4,879	1.22	95,937	0.93	〃 22年	10,952	2.18	251,378	1.99
〃 50年	5,655	1.33	119,135	1.07	〃 23年	10,653	2.11	235,719	1.87
〃 55年	7,156	1.57	141,689	1.22	〃 24年	10,541	2.09	235,406	1.87
〃 60年	8,918	1.88	166,640	1.39	〃 25年	10,290	2.04	231,383	1.84
平成 2年	7,699	1.61	157,608	1.28	〃 26年	9,981	1.98	222,107	1.77
〃 7年	9,064	1.85	199,016	1.60					
〃 12年	12,053	2.42	264,246	2.10					

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 26 年の本県の市区町村別にみた離婚率を図 6.1 に示す。最も低かったのは東峰村の 0.00、次いで築上町の 1.02、小郡市の 1.24、赤村の 1.28、香春町の 1.28 の順だった。

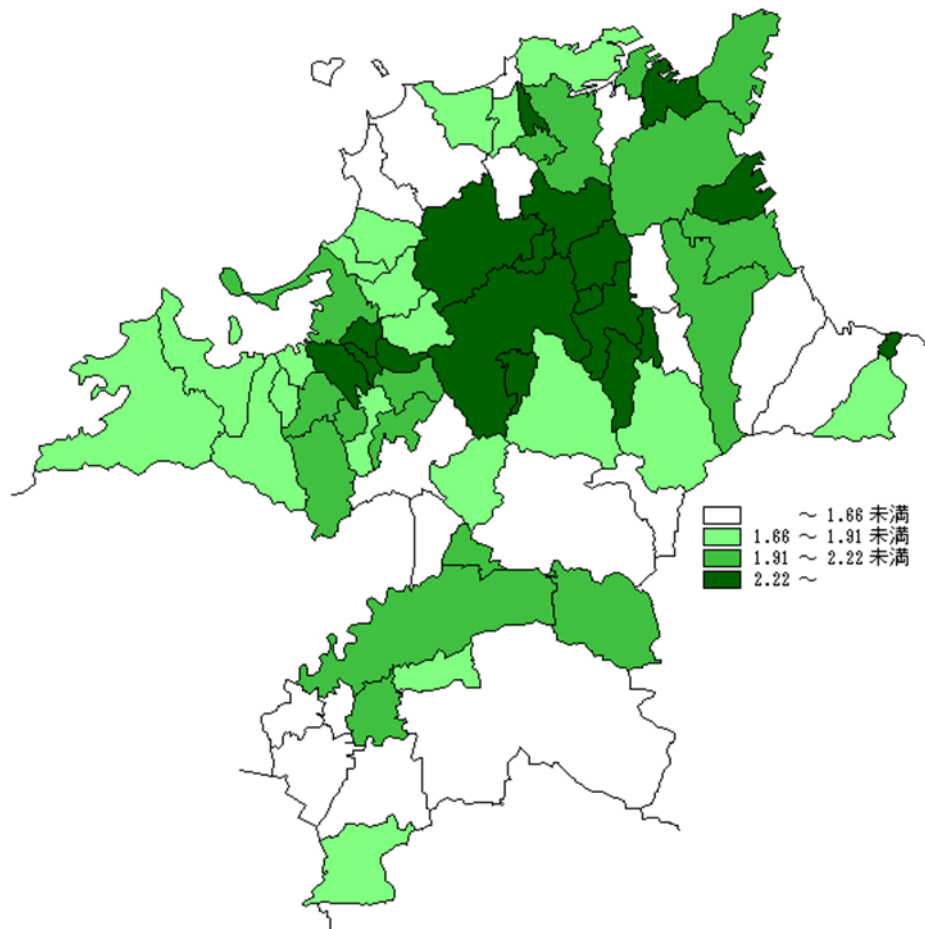


図 6.1 市区町村別にみた離婚率（人口千対）（平成 26 年・福岡県）